

子どもの育ちの ニーズシート



ガイドブック



岡山県

目 次

はじめに	1
子どもと家族の暮らしの支援	2
支援全体の流れ	2
I 子どもと家族の暮らしの現状を理解する—アセスメント—	3
1 アセスメントとは	3
2 アセスメントのポイント	4
(1) すべての家族構成員の参画	4
(2) 注意しておくこと	4
(3) 情報収集の同意を得る	4
3 アセスメントの進め方（明らかにすべき情報）	5
(1) アセスメントを開始した理由を記録する	5
(2) 基本情報について	6
(3) 子どもの支援者の情報	8
(4) 子どもの安全確保	9
(5) アセスメントの枠組み	10
(6) 目処をつける	15
(7) 情報を精査する	15
(8) 情報を分析する	16
(9) 『分析結果のまとめ』の策定	16
II 支援計画の策定	18
1 支援計画とは	18
2 策定のポイント	18
3 策定の手順について	19
(1) 『分析結果のまとめ』から確認する	19
(2) 子どもや家族と策定する	19
(3) 記入方法	23
(4) 子どもの支援者を入れた会議を開く	24
(5) 子どもや家族に話を聴く	24
III 支援の実施	25
1 支援の進捗を確認する	25
2 子どもへの影響を確認する	25
IV 支援の振り返り	26
1 合同会議を設定する	26
2 再度計画に活かす	26
子どもの育ちのニーズシート	27
I 概 要	27
1 目 的	28

(1) 子どもの暮らしを中心に置いて現状をとらえる.....	28
(2) 当事者の参画.....	28
(3) 現状と方向性、具体的な支援内容の共有.....	29
2 対 象.....	29
3 内 容.....	29
4 構 成.....	30
(1) アセスメント枠組みの3つの側面.....	30
(2) 子どもの育ちのニーズ.....	31
(3) 親のサポート力（育ちを支える力）.....	32
(4) 家族と環境.....	33
(5) 子どもの育ちのニーズと親のサポート力の関係.....	33
(6) 年齢区分の選び方.....	33
II 進め方.....	34
1 ニーズシートの使用手順.....	34
(1) 子どもが意見を伝える.....	34
(2) 親の話を聴く.....	36
(3) 強みをとらえる.....	36
(4) 全体像をとらえる.....	37
(5) 情報を共有する.....	37
(6) 変化を見出す.....	38
2 使用のポイント.....	38
(1) 子どもを中心に使用していくことが基本.....	38
(2) 質問項目について.....	39
(3) 「はい◎/もう少し○/わからない△」欄について.....	40
(4) 支援計画の策定に向けたやりとり.....	40
(5) 「現状とサポート」欄について.....	42
(6) 目的に応じた使用方法を選ぶ.....	43
3 使用の実際.....	43
(1) 準備と心構え.....	43
(2) 導入に向けた説明.....	44
(3) 情報を引き出す.....	46
4 ニーズシートの開始.....	49
参考文献.....	50
資 料 編.....	51

はじめに

2016（平成28）年6月に「児童福祉法等の一部を改正する法律（平成28年法律第63号）」が公布されました。4つある改正の概要のうち、とりわけ「児童虐待発生時の迅速・的確な対応」では、児童相談所（以下「児相」という。）の権限強化の一環として「児相から市町村への事案送致」が新設され、それに伴い、厚生労働省が「児相・市町村に共通のアセスメントツール」を開発し、共通基準による初期評価に基づく役割分担を明確化することが示されたことは、児相や市町村の職員の多くが過大な期待を寄せるという結果を招いています。

もし初期評価に基づく役割分担を明確化するのであれば、まず子どもや家族の支援を考えていく「子どもと家族、子どもの支援者、市町村、児相に共通のアセスメントツール」が必要であり、その集積があって初めて可能になると思われま

岡山県では、2007（平成19）年の死亡事故を契機に「子ども中心」の旗印を掲げ、「一貫した重層的な支援」「地域で支える」「当事者参画」を目指して『「子どもが心配」要支援モデル』を開発し、『市町村子ども虐待対応ガイドライン』『「子どもが心配」チェックシート』等の活用を通じて普及啓発活動を展開してきました。そして、2014（平成26）年には、共通のアセスメントツール『子どもの育ちのニーズシート』（以下「ニーズシート」という。）を開発し、児相での活用や市町村との連携事業での活用実績を踏まえて、この冊子を作成しました。

ニーズシートは、アセスメントツールの1つですので、この冊子では、まず、「子どもと家族の暮らしの現状を理解するアセスメント」に焦点を当てて解説し、次にアセスメントの結果を踏まえて、子どもや家族、子どもの支援者と共に行う「支援計画の策定」、計画に基づく「支援の実施」、変化を確認する「支援の振り返り」の順で解説した後、ニーズシートについて解説をしています。

ニーズシートは、活用の事例を集積していくことで、より良いものを目指していく予定であり、次年度には活用事例集を作成する予定となっています。そのためには、市町村で子どもの相談支援活動を行っているみなさんの協力が不可欠です。

私たちは、依頼があれば事例への活用を通じて一緒に学び合う機会を設けたいと考えていますし、市町村のみなさんと一緒にチームを組んで、子どもを中心としたより良い支援を創るために取り組んでいきたいと考えています。

ぜひ一緒に取り組みましょう。

子どもと家族の暮らしの支援

支援全体の流れ

子ども※1を対象とした相談支援活動は、子どもと家族の暮らしの現状を理解していく「アセスメント」から、子どもと家族が自分たちの持っている力をしっかりと発揮しながら、子どもの暮らしの安定を実現していくことを目的とした具体的な「支援計画の策定」、それを子どもの支援者※2と共有する機会を踏まえた実際の「支援の実施」、支援の変化を確認するための「支援の振り返り」の段階を子どもと家族、子どもの支援者と一緒に進めていき、振り返ったことを再度支援計画へ活かして支援を実施する繰り返しの過程※1で展開していきます。

ここでは、子どもを対象とした相談支援活動の段階ごとの活動内容とそのポイントを示していきます。

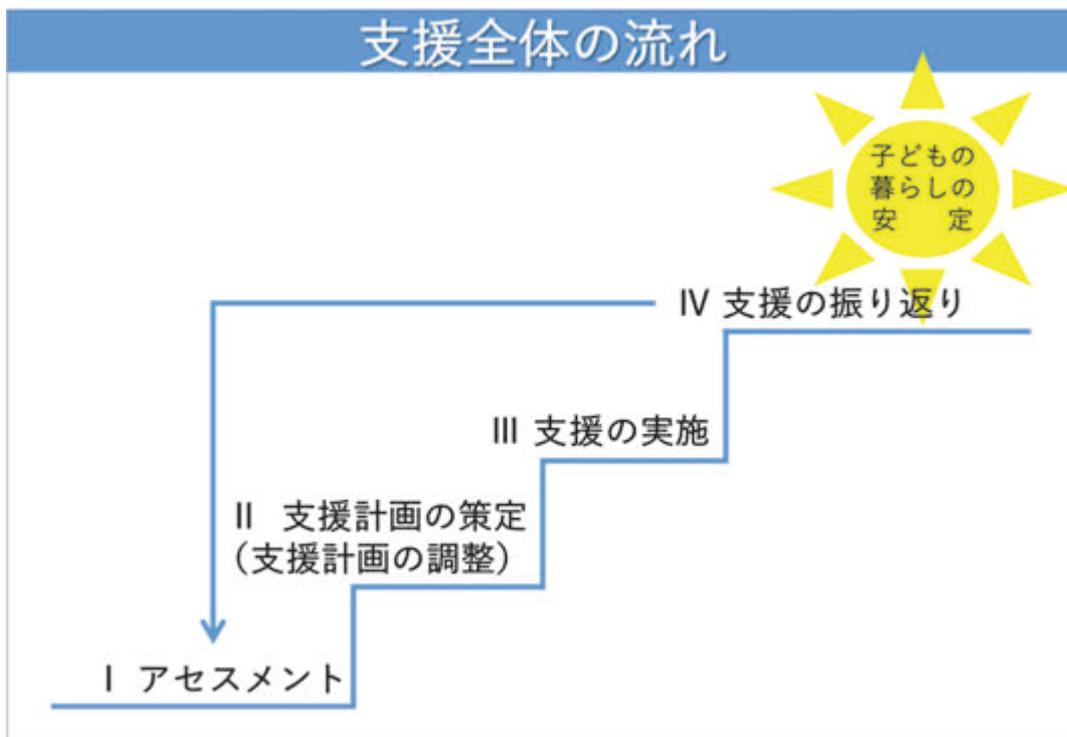


図1 支援を必要とする子どもと家族の支援全体の流れ

- ※1 **子ども**：この冊子では、児童福祉法（昭和22年12月12日法律第164号）で定められている「要保護児童」（支援を必要としている子ども）という意味で使用しています。
- ※2 **子どもの支援者**：この冊子では、「友だち、塾の先生、スポーツ少年団の指導者、学童保育のスタッフ、保育士、教員、近隣の住民、民生・児童委員、愛育委員などといった地域での子どもの暮らしを支えている支援者」という意味で使用しています。

1 子どもと家族の暮らしの現状を理解するーアセスメントー

1 アセスメントとは

「アセスメント」とは、子どもと家族から適切な情報^{※3}を聴取し、一緒に整理しながら支援計画を策定する過程を言います。

そうすることによって、「あなた方は、今こういうことですね。ここで困っているのですね。」ということを知りやすく示すことができるのです。^{※図2}

子どもを対象とした相談支援活動を展開していくためのアセスメントは、子どもの暮らしを中心に置いて、子どもと家族を取り巻く暮らしの現状をとらえながら、子どもと家族のこれからの暮らしをどのようにしていくかを見通し、必要ならばどのような支援を展開していくかを明らかにしていくための過程です。

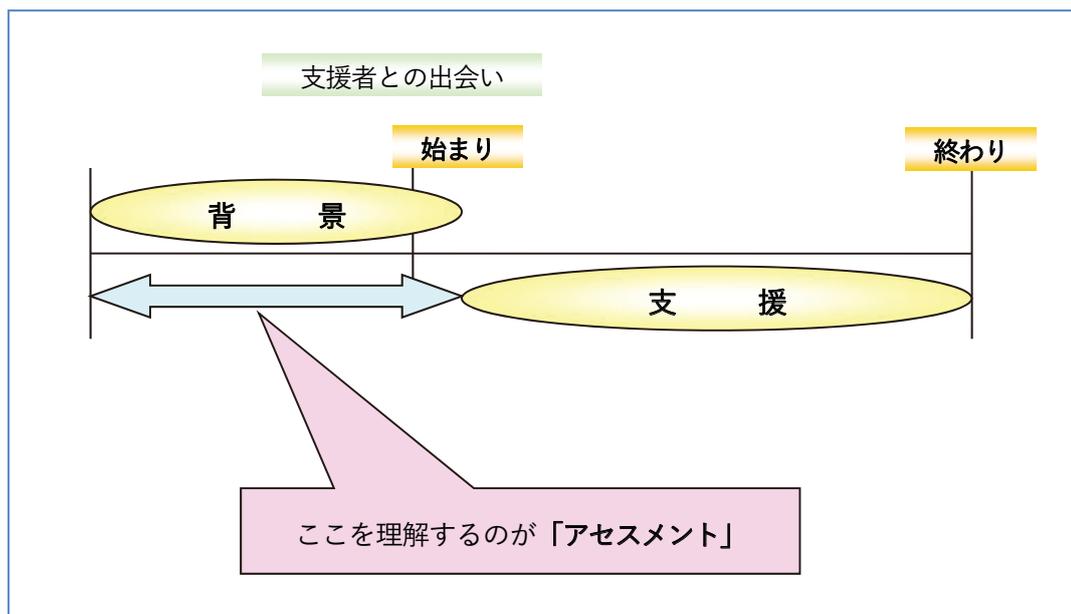


図2 アセスメントとは

※3 **適切な情報**：この冊子では、「①子どもと家族の過去と現在の暮らしを振り返り理解する/②子どもと家族が求めているものを理解する/ために必要な情報」という意味で使用しています。

2 アセスメントのポイント

(1) すべての家族構成員の参画

アセスメントは、子どもと親に加えて、すべての家族構成員に参画してもらえよう依頼することを基本としています。

「すべて」の中には、今は別の場所や新しい家族と暮らしている親やきょうだい、祖父母、その他の親族で子どもにとって重要な意味を持っている人を含んでいます。

とりわけ、父親や男性の養育者がアセスメントに参画することが重要になります。

もしも子どもにとって重要な意味を持っている人物で、アセスメントに参画しなかった人がいれば、名前と関係性、参画しなかった理由を記録します。

(2) 注意しておくこと

子どもや家族と一緒にアセスメントを行う際には、注意しておかなければならないことがあります。

例えば、両親の間、もしくは親と他の家族の間にDV構造^{※4}が見られる場合や家族に攻撃的な気分になりやすい人物がいる場合などです。

アセスメントを行っている場面で、そのような状況が見られたら、その情報は子どもや家族と活動している他の子どもの支援者と共有しておきます。

※4 **DV構造**：この冊子では、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（平成13年4月13日法律第31号）の配偶者からの暴力等がある関係構造という意味だけではなく、「家庭内において一人の大人が他の構成員に対して暴力を振う、自尊心を傷つけるなどの横暴な言動を通じて構成員を支配する関係構造」という意味で使用しています。

(3) 情報収集の同意を得る

情報収集の活動を行う場合は、どこへ何の目的で何を聞くのかを説明して子どもや家族から同意を得ます。

その後、必要があれば家庭訪問や子どもが所属している機関等への情報収集の機会を設定していきます。

3 アセスメントの進め方（明らかにすべき情報）

ここでは、担当者^{※5}がアセスメント活動を通じて明らかにすべき情報とその内容を紹介していきます。^{※表1}

※5 **担当者**：この冊子では「①相談に訪れた子どもと家族の相談支援活動を担当する者/②アセスメントを担当する者」という意味で使用しています。

表1 アセスメントの進め方（明らかにすべき情報）とその内容

アセスメントの進め方	内 容
(1) アセスメントを開始した理由	① 相談者の訴えの内容と子どもの状態像の記録 ② 記録の注意点
(2) 基本情報	① 子どもとすべての家族構成員の情報 （氏名/年齢/性別/生年月日/職業/年収等） ② 子どもの養育責任 ③ 重大な出来事とその影響 ④ ジェノグラム ⑤ その他のアセスメントツール
(3) 子どもの支援者の情報	① どのような人物か ② これまでどのような支援を行ってきたのか
(4) 子どもの安全確保	① 安全確認の視点に立った情報の確認 ② 緊急対応が必要か否か
(5) アセスメントの枠組み	① 子どもの育ちのニーズ ② 親の養育力 ③ 家族と環境要因 ④ 相談者の訴えと3つの側面の関連を考える
(6) 目処をつける	
(7) 情報を精査する	
(8) 情報を分析する	
(9) 『分析結果のまとめ』の策定	

(1) アセスメントを開始した理由を記録する

① 相談者の訴えの内容と子どもの状態像の記録

アセスメントは、相談者^{※6}の訴えに耳を傾けることから始まりますので、担当者は相談者の訴えの内容の概略と併せて、子どもの状態像を明確かつ簡潔に記録します。それがアセスメントを開始した理由になります。

相談者の大半が大人ですので、例えば「親は、子どもが家や学校で落ち着かず困っている」など、「親が困っている」ことの訴えは記録されますが、アセスメントには、「子どもが落ち着かない」ことの具体的な状態の記録が重要になります。

※6 **相談者**：この冊子では「子ども自身、家族（親を含む）、子どもの支援者」の意味で使用しています。

② 記録の注意点

記録は、相談者が見ても大丈夫なように書く必要があります。

そうすることで、相談者から求められたときに適切な説明ができる記録となり、それを残す理由をより一層明確にさせ、管理のあり方を考えることに繋がっていきます。

(2) 基本情報について

アセスメントを目的として、基本情報を聴き取る際には、常に「子どもの安全確認」(後で説明)の視点を忘れず、「子どもを中心としたアセスメント概念」(以下「アセスメントの枠組み」という。後で説明)※3の視点に立って分析をしながら行うことが重要です。

① 子どもとすべての家族構成員の情報

相談者の訴えから聴き取った子どもの年齢や性別、家族構成等の基本情報は、改めて相談者自身へ確認をしていきます。

家族については、子どもと一緒に暮らしている構成員一人ひとりに関する情報を明らかにして、正確に記録するようにします。

とりわけ、生年月日や氏名(漢字や読み方)、職業や勤務形態、年収、子どもとの関係性などの詳細な情報を明らかにしてもらえるように、その目的を丁寧に説明することを心がけます。

また、併せて今は別の場所や新しい家族と暮らしている親やきょうだい、祖父母、その他の親族、血縁のない家族の情報も確認することを忘れないようにします。

そのことは、危機管理や今後の支援を考えていくうえで重要な情報となります。

② 子どもの養育責任

子どもにきょうだいがいる場合、それぞれの養育責任を誰が担っているのかという情報を把握します。

「養育責任」とは、いわゆる法的な親権を有している場合と、実際の暮らしにおいて一義的な養育を担っている場合を意味しています。

養育責任は、一般的に親(もしくは祖父母等)がその両方を担っています。

③ 重大な出来事とその影響

相談者の訴えと子どもの状態像をより詳しく理解するためには、子どもと家族に起きた重大な出来事の情報进行明らかにすることも必要です。

「重大な出来事の情報」とは、別離や離婚、解雇、死別などに関するものです。そうした情報は、子どもへの影響を説明するために使うことができます。

④ ジェノグラム

基本情報を確認しながら分析を行う際には、家族構成を単純な記号で図示した『ジェノグラム』を活用するとよいでしょう。

ジェノグラムは、子どもや家族と一緒に使うことができ、子どもや家族に寄り添える有効なアセスメントツールの一つであり、簡単な作業で、子どもと家族の関係性、家族の歴史を把握するのに役立ちます。

⑤ その他のアセスメントツール

基本情報を確認しながら分析を行う際には、ジェノグラムの他にも『エコマップ』『子どものあゆみ』※7/表2『ライフマップ』※8『「子どもが心配」チェックシート』※9などのアセスメントツールが使われています。

表2 『子どものあゆみ』記入例

年齢	子どもに起きた出来事	家族の変化
0歳	・両親のもとに長女として誕生	・母は男の子を希望しており、あまり喜ばなかった。 ・父は誕生を喜び、出産時は父方祖父母と一緒に産院を訪れた。
3ヶ月	・授乳やおむつ交換は母から適切にもらえるが、あやしたり肌に触れたりあまりしてもらえない。 ・父や父方祖父母は世話をし、かわいがってくれる。	・母が保健センターの育児相談に行き「子どもをかわいく思えない」「夫や姑の方になついているように見える」「結婚して県外から来たため友人がいない」と保健師に相談する。 ・保健師の紹介により、母親と保健師と一緒に子育てサロンに参加する。
4ヶ月	・子育てサロンに通3日通う。他児と出会い、ボランティアからかわいがってもらえる。	・母が地域の人と知り合え、地域の生活情報を教えてもらえる母仲間ができる。
10ヶ月	・平日の日中は、保育園で過ごすようになる。 ・新しい環境に慣れず、泣くことが多い。 ・担当保育士にかわいがってもらう。	・父が勤める会社が倒産して収入が激減 ・市内のアパートから市営住宅へ転居 ・母が平日日中、ヘルパー資格取得勉強を始める。
11ヶ月	・卵アレルギーが見つかり、給食は個別に対応	・母がヘルパー資格を取得し、働き始める。
1歳	・保育園に徐々に慣れ、笑顔が増える。 ・担当保育士を慕い、後ろを追って歩く。	・母の仕事が忙しく、保健師の電話に出なくなる。 ・子育てサロンで知り合った友だちや他の母と会ったり連絡をとることがなくなる。
1歳2ヶ月	・担当保育士に抱っこを沢山せがむようになる。 ・給食を急いで一度に口に入れるように食べる。	・父が就職でき、両親ともに仕事が忙しく、子どもと十分かわる時間と余裕がない。 ・母が食事を作るのが辛く、朝食が不十分になる。 ・母がイライラして大声で叱ることが増える。
1歳3ヶ月		・母が毎日、連絡帳に悩みを書くようになる。

出典：平成24年南城市子育て支援センター地域福祉委員会実務ワークショップ編子もたちの育ちを支援する子どもを中心とした多機関連携実務のためのワークショップ資料を作成

それらのアセスメントツールは、子どもと家族の暮らしの現状を理解することを目的に、子どもや家族、子どもの支援者とのやりとりに使用することを通じて情報を引き出しながら分析を行うために使います。

この冊子で解説している『子どもの育ちのニーズシート』（以下「ニーズシート」という。）も、そうしたアセスメントツールの一つです。

- ※7 **子どものあゆみ**：子どもの年齢に沿って「子どもに起きた出来事」を中心に「家族の変化」と並べて情報を整理することができるアセスメントツール。岡山県では「子どものための総合情報システム」に組み込まれている。
- ※8 **ライフマップ**：「子どものあゆみ」をイラスト等で図示したアセスメントツール。「子どもに起きた出来事」の意味合いがより一層わかりやすくなる。
- ※9 **「子どもが心配」チェックシート**：英国で開発された『The Graded Care Profile(GCP)Scale～A qualitative scale for measure of care of children ～』(1995)を基に、岡山県の風土や生活習慣に合うように、2009(平成21)年3月に著作者 Dr.Om.Prakash Srivastava の許可を得て開発したアセスメントツール。岡山県庁 子ども未来課のホームページからダウンロードができる。

(3) 子どもの支援者の情報

① どのような人物か

子どもの支援者には、子どもや家族と一緒にアセスメントを行って支援計画を策定する過程へ必要に応じて参画を呼びかけることがあります。

そのため、子どもや家族と一緒に活動している子どもの支援者がどのような人物で、なぜ一緒に活動するようになったのか、また、子どもの暮らしにどのような影響を与えているのかなどの情報を明らかにすることもアセスメントの一部になります。

② これまでどのような支援を行ってきたのか

相談者の訴えと子どもの状態像をより詳しく理解するためには、以前関わりを持っていた子どもの支援者の情報も明らかにする必要があります。

その際には、当時の子どもの支援者が行ったアセスメントや具体的なやりとりの記録の内容を明らかにすることが重要です。

子どもの支援者が行ったアセスメントや具体的なやりとりの記録とは、健診結果、発達検査の結果、教育や学習の指導計画、言語発達に関するアセスメント、市町村の保健師や福祉担当者の記録、メンタルヘルスのアセスメント、アルコールや薬物などの治療歴、犯罪関連や反社会的行動の記録などがあります。

(4) 子どもの安全確保

① 安全確認の視点に立った情報の確認

基本情報や子どもの支援者の情報を確認していく際には、同時に「子どもはどのような状況に置かれているのか」「その他の家族や親族の協力が得られているのか」「友人や地域の子どもの支援者の手助けを受けているのか」等といった子どもの安全に関する視点に立った情報の確認をしていく必要があります。

② 緊急対応が必要か否か

情報の確認をしていく過程で、子どもの状態や養育環境が切迫しており、子どもが一時的に家族のもとから離れることが必要であると感じた場合は、面接を一旦中断して、上司や責任者と協議を行い、機関（組織）として判断を決定し、安全を確保するための緊急対応を最優先した活動を展開します。

相談者が家族の場合は、まず家族にその判断と理由を丁寧に伝えて、同意を得るようにします。

もし家族が同意をしない場合には、その理由を確認しながら「子どもの安全を今後どのようにして確保していくのか」「他の家族や親族に連絡を取ってもよいか」「子どもの所属機関などの協力を依頼できるか」等を丁寧に聴き取った後で、改めて上司や責任者と協議を行い、機関（組織）として判断を決定します。

(5) アセスメントの枠組み

一義的な緊急対応の必要がないと判断した後は、アセスメントの枠組み※図3を意識した聴き取りに重点を移します。

アセスメントの枠組みは、「子どもの暮らし」という目に見えにくく曖昧なものを他人である私たちが理解するために、暮らしの全体像を把握するための項目を「子どもの育ちのニーズ」「親の養育力」「家族と環境要因」の3つの側面から整理したものであり、子どものための相談支援活動を展開していく際のすべての段階を貫く視点、基本的な考え方を表しています。

岡山県では、2008（平成20）年から導入しており、相談支援活動に活かしています。

アセスメントの枠組みを意識した聴き取りを行うためには、これから紹介する3つの側面を構成している領域の内容と、ニーズシートの質問項目の内容をあらかじめ理解しておく必要があります。

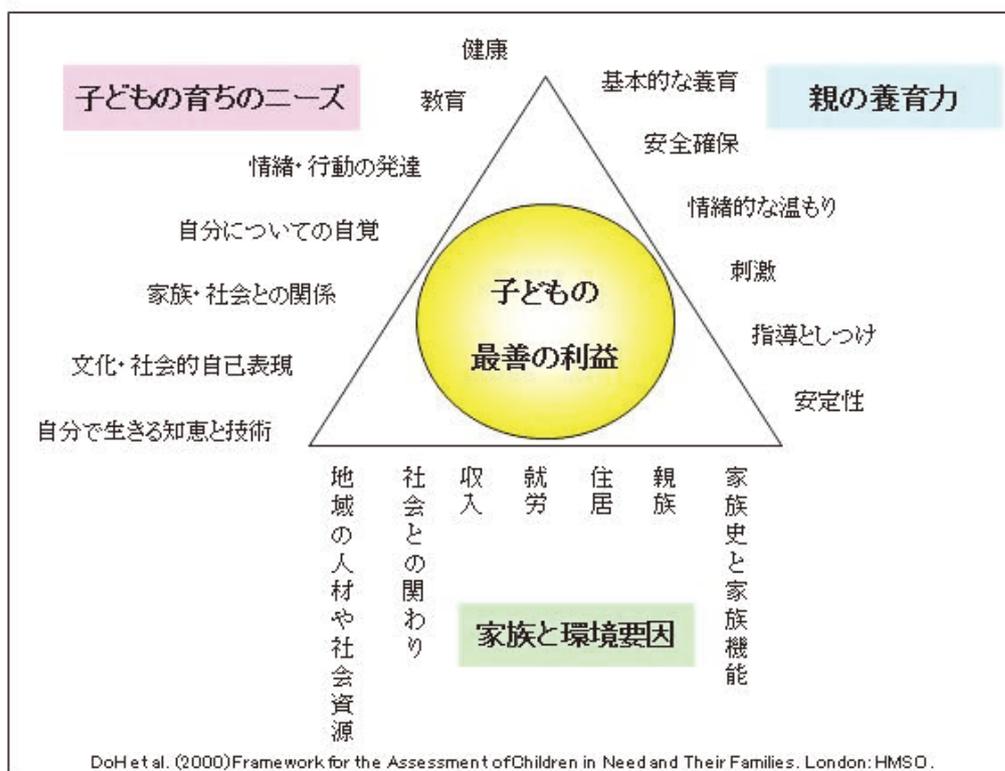


図3 アセスメントの枠組み

① 子どもの育ちのニーズ

アセスメントの枠組みの「子どもの育ちのニーズ」の側面は、「健康」「教育」「情緒・行動の発達」「自分についての自覚」「家族・社会との関係」「文化・社会的自己表現」「自分で生きる知恵と技術」の7つの領域から構成されています。※表3

② 親の養育力

アセスメントの枠組みの「親の養育力」の側面は、「基本的な養育」「安全確保」「情緒的な温もり」「刺激」「指導としつけ」「安定性」の6つの領域から構成されています。※表4

③ 家族と環境要因

アセスメントの枠組みの「家族と環境要因」の側面は、「家族史と家族機能」「親族」「住居」「就労」「収入」「社会との関わり」「地域の人材や社会資源」の7つの領域から構成されています。※表5

④ 相談者の訴えと3つの側面の関連を考える

相談者の訴えは、アセスメントの枠組みの3つの側面のどの領域のニーズと関連があるでしょうか。

アセスメントの枠組みを意識した聴き取りを通じて、相談者自身が自ら満たされていないニーズと具体的な解決方法に気づき、その方法で子どもの育ちのニーズを満たすことができると担当者が判断できれば、助言が良い場合もあります。

表3 「子どもの育ちのニーズ」の7つの領域とその内容

領 域	内 容
健 康	<p>○心身の健康維持だけではなく、病気や障害への適切な配慮や健康に関する情報提供はありますか。</p> <p>例えば、医療、栄養、運動、必要に応じた予防接種や健診の機会、年長の子どもには、健康に影響を与える身近な問題についての情報提供と助言が行われているでしょうか。</p>
教 育	<p>○知的発達を促進する機会（遊ぶこと、他の子どもと関わること、本を読むことなど自分で学ぶための技能を伸ばしたり関心を満たしたりすること）や、成功・達成感の体験の機会が与えられているでしょうか。</p> <p>○知育や知的発達、向上に関心があり、子どもの状況に応じた教育上の配慮をする大人がいますか。</p>
情緒・行動の発達	<p>○子どもが成長するに伴い、親や養育者、その他の人への感情や行動で表わす反応は適切でしょうか。</p> <p>例えば、幼い頃に示す愛着の程度や質、性格気質の特徴、環境の変化への適応、ストレスへの反応、自己規制がどの程度できているかなどはどうでしょうか。</p>
自分についての自覚	<p>○子どもが「自分は他の人と違う存在で、価値ある存在なのだ」という感覚が、成長とともに育てられているでしょうか。</p> <p>○自分や自己能力への肯定的な感情、家族や同年代の仲間、地域社会への帰属感と受け入れられているという感覚を持つことができているでしょうか。</p>
家族・社会との関係	<p>○親や養育者、きょうだいと安定した関係は持っているでしょうか。また、その関係は良好でしょうか。</p> <p>○年齢を重ねるにつれて同年代の友人との友情や、人生に影響を及ぼす家族以外の人の重要性は増しているでしょうか。そして、そのことに対する家族の反応はどうでしょうか。</p> <p>また、人の立場で考える力、共感する力の発達はどうでしょうか。</p>
文化・社会的自己表現	<p>○自分の外見や行動、障害などが人からどのように見られていて、どのような印象を与えているのかということについて子ども自身の理解が深まっているでしょうか。</p> <p>○年齢や性別、文化にあった服装をしていますか。清潔や衛生に気を配っているでしょうか。</p> <p>また、そのことについて、親や養育者は、時と場に応じた身なりや行動をするように指導しているでしょうか。</p>
自分で生きる知恵と技術	<p>○自立に必要な生活力（幼い段階での生活力とは、衣服の着脱、食事、自信をつける機会、家族から離れて行動する力。成長した子どもについては、ひとりで身の回りのことをする力を身につけているか）、情緒力、伝達力を身につけているでしょうか。</p> <p>例えば、社会的な問題解決能力（困ったときに対応する力）を身につけられるよう育むこともその中に含まれます。</p> <p>○この力を評価するにあたっては、子どもの持つ障害やその他の要因が子ども自身の持っている自立する力の発達に与える影響や、それらの要因を問題化する社会的状況を考慮する必要があります。</p>

表4 「親の養育力」の6つの領域とその内容

領 域	内 容
基本的な養育	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの健康状態、発育及び発達に応じて必要な健診や医療を受けさせているでしょうか。 ○基本的な生活（食事や飲み物、住居、清潔で適切な衣服、衛生の確保はできているか）もこの要素に含まれます。
安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが危害や危険から守られるように気をつけているでしょうか。 <p>例えば、虐待や危険から守り、危害を加えるおそれのある大人や子どもに近づけない、自傷行為をさせないなど。</p> <p>また、家庭の内外で事故を防止し、安全の対策をとっているでしょうか。</p>
情緒的な温もり	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの情緒的な欲求に適切に応え、子ども自身が「自分はかけがえない存在である」という自己肯定感が育つように働きかけていますか。 ○大切な大人と、安定した温もりのある関係を継続的に持ちたいという子どもの気持ちを受け取り、理解して、対応しているでしょうか。 <p>例えば、子どもを認め、誉め、励まし、適度なスキンシップをすることなどがあります。</p>
刺 激	<ul style="list-style-type: none"> ○励ますなど、意識的に働きかけて子どもの学習意欲や知的発達を促したり、社会活動への参加を勧めたりしていますか。 ○子どもとのやりとりや会話、表情やしぐさ、問いかけに応える、子どもの生活や学びの基礎となる遊びを促し、一緒に遊び、教育の機会を与える、そのような働きかけを通じて子どもの認知の発達を高め、潜在的な力を引き出していますか。 <p>また、成功体験を与え、学校などの教育機会を保障し、あきらめないで挑戦しようとする力が育まれているでしょうか。</p>
指導としつけ	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが、外的な規範に依存しないで自分なりの価値観を持ち、他者の中で適切な行動をとれる自立した成人になるよう育てていますか。 ○親は、適切な行動や感情の抑制、他者との関係のあり方ややっていいことといけないことの区別となる手本を自ら示しているでしょうか。 <p>また、子どもが自らやろうとしていることに対して「無駄である」とか「よい結果にならない」などと干渉したり、「危ないからやめなさい」と言うなど過保護になったりしていませんか。</p> <p>さらに、理性的な問題の解決方法（怒りのコントロール、他者への思いやりなどを含む）が身に付くように導いていますか。</p>
安 定 性	<ul style="list-style-type: none"> ○家族の中に様々な生活の変化（離婚や死別など）があったとしても、子どもと親の愛着関係が育まれ、発達に最適な環境が整えられていますか。 <p>また、子どもの成長に伴い親の対応も変えて、適切にその関係性を発展させていますか。加えて、子どもが大切だと思う人たちと連絡を取れるようにしていますか。</p>

表5 「家族と環境要因」の7つの領域とその内容

領 域	内 容
家族史と家族機能	<p>○その世帯に誰が同居し、子どもとどうかかわっているかということ、家族や世帯の構成の大きな変化、親の子ども時代の経験、人生の重要な節目や家族にとってのその出来事の意味、きょうだいとの関係やその影響など家族機能の性質や、世帯にいない親も含めて、親の長所や問題点、別れた親同士の関係はどうか。</p>
親 族	<p>○子どもと親が血縁を問わず、不在の人（離婚や死別など）も含めて、誰を家族と認めているでしょうか。 それぞれの人が家族の中で具体的にどのような役割を果たし、どれほど大切なのでしょうか。</p>
住 居	<p>○住居には、子どもと家族の人々にとって年齢や発達にふさわしい基本的な生活用具や設備など（水道・暖房・衛生設備・調理器具・寝具などが整い、清潔・衛生・安全性が確保されている）を備えているでしょうか。 それらが整っている場合とない場合、子育てにどの程度影響を及ぼしているでしょうか。 また、障害がある子どもやその家族にとって適切な構造になっているでしょうか。 それらのことを住居の中と外、周辺部分を含んで評価をします。</p>
就 労	<p>○世帯の中で、誰がどのように働いているのでしょうか。その就労形態に変化はないのでしょうか。 また、そのことが子どもに影響を与えているでしょうか。 ○仕事、あるいは失業を家族はどう見ているのでしょうか。それが子どもとの関係にどう影響しているのでしょうか。 ○子ども自身が仕事をした経験があるのか、もしあればその影響も含めて評価をします。</p>
収 入	<p>○一定期間家族を養えるだけの収入があるかをみます。 収入はあっても家族がその恩恵を十分に受けているでしょうか。その収入は家族の最低限の生活を支えるに十分な額でしょうか。 ○家族が利用可能な収入の不足を補う社会資源は、どのように活用されているでしょうか。 ○子どもに影響するような家計の行き詰まりはあるでしょうか。</p>
社会とのかかわり	<p>○家族が、隣人や地域などとどのようにかかわり、それが子どもや親にどういう影響を与えているでしょうか。 例えば、近所付き合いや知人、友人とはどのようにつきあっているでしょうか。 また、困ったときに支援してくれる地域の人々はいいますか。 さらに、家族はそれらの人々とのかかわりをどの程度重要と評価しているでしょうか。</p>
地域の人材や社会資源	<p>○地域にかかりつけの医療機関や保育所、学校、交通機関、店舗、レクリエーション施設といった誰でも利用できる施設やサービスがあるかどうかをみます。 また、それらの利用しやすさ、交通の便、サービス内容、障害のある子どもやその家族が利用できる設備があるか、さらにはその質もみます。</p>

(6) 目処をつける

アセスメントの枠組みを意識した聴き取りを通じて、子どもの暮らしに何が起きているのかという目処をつけていきます。

この段階では、つけたすべての目処を記録しておくことが重要です。

つけた目処が多ければ多いほど、支援を考えていくためのヒントになります。

今後の支援の方向性と具体的な支援の内容を考えていくためには、今、何が起きているのかを明らかにする必要があります。

その時には、さまざまな可能性を考えた上で、目処をつけながら話を聴いていくことが大切です。

そして、何よりも、私たちが行う支援が、子どもによりよい結果をもたらされるためには、「子どもにとってどうなのか」と子どもが置かれている状況と子どもの真のニーズを把握しながら進めていくことが欠かせません。

(7) 情報を精査する

相談者から聴き取った情報は、根拠があるのか、事実なのかといった観点から精査します。

具体的には、「さらに確認したほうがよい内容かどうか」「誰に確認すべきか」「不足している情報はないか」「信頼できる情報が得られているかどうか」などといった視点から振り返りを行います。

振り返りの際に重要なのは、情報の質の分析であり、それは具体性や客観性があるほど高くなります。

相談者が、思っていることや考えていること、感じていることは、質がそれほど高くない情報になりますので、改めて精査をします。

情報の質を高めるためには、相談者からの情報だけでなく、その他の家族や子どもの支援者から情報を得ること、家庭訪問などを通じて実際の暮らしを見ることが重要です。

(8) 情報を分析する

情報の精査の次には、情報の分析を行います。

分析は、まず、担当者が行い、その後、機関（組織）内の会議で行います。

分析にあたっては、いくつかのアセスメントツールを使うこと、医師や弁護士、児童福祉分野の学識経験者などのスーパーバイズを受けることなどを行い、その結果を踏まえて客観的な分析をしていくことが必要です。

(9) 『分析結果のまとめ』の策定

情報の分析が終わったら、『分析結果のまとめ』※表6を策定します。

分析結果のまとめは、「親の養育力」「家族と環境要因」の強みと困難を含めて、「子どもの育ちのニーズの満たされ方」の視点から集約して「子どもの育ちのニーズ」7つの領域ごとに要約した内容を記入していき、最後に全体の所見を記入する順番でまとめていきます。

策定した分析結果のまとめは、担当者が所属している機関（組織）内の会議で共有するなどして決めます。

決裁の方法については、あらかじめ機関内で話し合っておく必要があります。

分析結果のまとめの策定は、この後の『支援計画』の策定には欠かせない重要な作業になりますので、必ず行うようにしてください。

表6 分析結果のまとめ

平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 作成	〇〇市〇〇課	担当：
〇〇さんの育ちのニーズについて		
全体の所見		
<input type="checkbox"/> 全体の強みと困難のまとめ： <input type="checkbox"/> 今後の具体的な支援の方向性： <input type="checkbox"/> 次回会議の日程：		
健 康		
<input type="checkbox"/> 強みのまとめ： <input type="checkbox"/> 困難のまとめ：		
教 育		
<input type="checkbox"/> 強みのまとめ： <input type="checkbox"/> 困難のまとめ：		
情緒・行動の発達		
<input type="checkbox"/> 強みのまとめ： <input type="checkbox"/> 困難のまとめ：		
自分についての自覚		
<input type="checkbox"/> 強みのまとめ： <input type="checkbox"/> 困難のまとめ：		
家族・社会との関係		
<input type="checkbox"/> 強みのまとめ： <input type="checkbox"/> 困難のまとめ：		
社会での自分の現し方		
<input type="checkbox"/> 強みのまとめ： <input type="checkbox"/> 困難のまとめ：		
自分で生きる知恵と技術		
<input type="checkbox"/> 強みのまとめ： <input type="checkbox"/> 困難のまとめ：		

II 支援計画の策定

1 支援計画とは

支援計画とは、アセスメントの『分析結果のまとめ』に基づいて、子どもと家族、それを取り巻く環境^{※10}持つ「強み」を最大限に活かしながら「困難」を補い、具体的に誰がいつまでにどのような支援を行うか、その内容と見通しを具体的にした計画のことです。

支援計画は、子どもと家族、それを取り巻く地域の力を活用するものでなければならぬことから、表3～5に記載しているアセスメントの枠組みの3つの側面のそれぞれの領域についてあらかじめしっかりと理解しておき、どの機関（誰）がいつまでに何をどのように取り組んでいくのかを具体的に策定します。

※10 環境：ニーズシートでは、「親族、住居、就労、収入、隣人や地域の人々との関わり、かかりつけの病院、保育所、学校、交通機関、店舗、レクリエーション施設、住民サービス全般、障害を持っている子どもや家族が利用できる設備など」という意味で使用しています。

2 策定のポイント

支援計画は、子どもと家族が置かれている状態と、子どもを中心とした今後の支援の方向性が一目でわかるように整理して策定します。

支援計画は、満たされていないところ（「困難」）ばかりに着目するのではなく、満たしているところ（「強み」）に着目して策定することが重要なポイントとなります。

また、相談者の同意を得て、支援計画の策定の過程に子どもと家族が参画することはエンパワメントに繋がることから、重要なポイントになります。

さらに、子どもと家族、子どもの支援者が一堂に介して、支援計画を共有するための会議を開くことは、より実効性のある支援の実現へと繋がっていく重要なポイントになります。

3 策定の手順について

(1) 『分析結果のまとめ』から確認する

まず、アセスメントの『分析結果のまとめ』に基づいて、アセスメント枠組みの3つの側面がどのように子どもの育ちのニーズを満たしているのか、或いは十分満たせていないのかという結果を確認していきます。

先程も説明したように、「満たしている」ということは、親のサポートや家族と環境が、子どもの育ちのニーズを満たしているという「強み」を意味しています。

「十分に満たせていない」ということは、親のサポートや家族と環境が、子どもの育ちのニーズを十分満たすことができていない「困難」を意味しています。

ニーズシートを使用してみると、どのような家族であっても、子どもの育ちのニーズを満たすうえでの「強み」と「困難」があることがわかります。

次に、これまでのアセスメントの過程や分析の結果のまとめの中に、相談者の訴えと関連があると考えられる領域や強みと困難の具体的なエピソードはなかったのかを振り返ります。

それから、機関（組織）内の会議等の機会を活用するなどして、複数人で検討を行い、その結果を記録しておきます。

(2) 子どもや家族と策定する

支援計画は、『支援計画「子どもの育ちのニーズ」』^{※表7}『支援計画「親の養育力」』^{※表8}『支援計画「家族と環境要因」』^{※表9}（以下、3つをまとめて「支援計画」という。）を子どもや家族と一緒に記入しながら策定します。

策定は、担当者自身や機関（組織）内で検討した結果を子どもや家族へ説明しながら行い、その際には、子どもや家族は、どのような感想や意見を持ち、何に気づくのがとても大切になります。

なぜなら、子どもや家族の感想や意見、前向きな気づきは、子どもや家族の行動を変化させる可能性を高めることから、実効性のある支援計画を策定するうえで重要な働きをするからです。

表7 支援計画「子どもの育ちのニーズ」

側面	子どもの育ちのニーズ ☆強みや困難	子どもの育ちのニーズをどのようにして満たしていくのか ☆具体的な支援 ☆サービス	期間 ☆いつまでに ☆どれくらいの頻度で	担当する人と機関 ☆家族名 ☆担当者名	開始日	期待する成果
子どもの育ちのニーズ	健康					
	強み：					
	困難：					
	教育					
	強み：					
	困難：					
	情緒・行動の発達					
	強み：					
	困難：					
	自分についての自覚					
	強み：					
	困難：					
	家族・社会との関係					
	強み：					
	困難：					
	社会での自分の現し方					
	強み：					
	困難：					
自分で生きる知恵と技術						
強み：						
困難：						

表8 支援計画「親の養育力」

側面	子どもの育ちのニーズを満たす親の養育力 ☆強みや困難	子どもの育ちのニーズをどのようにして満たしていくのか ☆具体的な支援 ☆サービス	期間 ☆いつまでに ☆どれくらいの頻度で	担当する人と機関 ☆家族名 ☆担当者名	開始日	期待する成果
親の養育力	基本的な養育					
	強み：					
	困難：					
	安全確保					
	強み：					
	困難：					
	情緒的な温もり					
	強み：					
	困難：					
	刺激					
	強み：					
	困難：					
	指導としつけ					
	強み：					
困難：						
安定性						
強み：						
困難：						

表9 支援計画「家族と環境要因」

側面	子どもの育ちのニーズと親の養育力に影響している 家族と環境要因 ☆強みや困難	子どもの育ちのニーズをどのようにして満たしていくのか ☆具体的な支援 ☆サービス	期 間 ☆いつまでに ☆どれくらいの頻度で	担当する人と機関 ☆家族名 ☆担当者名	開 始 日	期待する成果
家族と環境要因	家族と環境要因					
	強み：					
	困難：					
	親 族					
	強み：					
	困難：					
	住 居					
	強み：					
	困難：					
	就 労					
	強み：					
	困難：					
	収 入					
	強み：					
	困難：					
	社会との関わり					
	強み：					
	困難：					
地域の人材や社会資源						
強み：						
困難：						

(3) 記入方法

子どもや家族と一緒に、子どもや家族の感想や意見、前向きな気づきを確認しながら、相談者の訴えと関連があると考えられる領域や、強みと困難の具体的なエピソードを「子どもの育ちのニーズ」「親の養育力」「家族と環境要因」それぞれの支援計画へ記入していきます。

① 「子どもの育ちのニーズ」の欄について

支援計画は、3つの側面のそれぞれの領域別に「子どもの育ちのニーズ」を中心に「強み」と「困難」を支援計画の左端の欄に記入します。

② 「どのように満たしていくのか」の欄について

「強み」と「困難」の記入が済んだら、子どもや家族が持つ力で子どもの育ちのニーズを満たしていくことを意識して「強み」をより伸ばすためには、今後、どのように子どもの育ちのニーズを満たしていけばよいか、「困難」を支援するためには、今後、どのように子どもの育ちのニーズを満たしていけばよいかについて話し合いながら、その具体的な支援内容を左から2番目の欄へ記入していきます。

ここでは、子どもの育ちのニーズを満たすために、子どもや家族が自分たちでできる支援をしっかりと考えていくことが基本であり、もっとも重要なポイントになりますので、くれぐれも最初から公的な支援やサービスを紹介したり、ニーズを少ししか満たさない既存のサービスを安易に当てはめたりするようなことがないようにしなければなりません。

③ 「期間」の欄について

左から3番目の「期間」の欄は、支援計画に沿って、いつまでに、どのぐらいの頻度で支援を展開したら、子どもの育ちのニーズの満たされ方に変化が出てくると見込まれるのか、その具体的な内容と期間を記入するとともに、計画どおりに変化が起きなかった場合の対応についても、具体的に記録しておきます。

④ 「担当する人と機関」の欄について

左から4番目の「担当する人と機関」の欄は、支援を担当する家族構成員の名前や機関の担当者名を記入するとともに、連絡方法も記録しておきます。

⑤ 「開始日」の欄について

左から5番目の「開始日」の欄は、支援をいつから開始するのかを記入します。支援の期間が決まっている場合は、終結の期間もあらかじめ記入します。

⑥ 「期待する成果」の欄について

最後に子どもの育ちのニーズを満たすことで得られるであろう「期待する成果」を決めて、子どもを主語にして具体的に記入します。

(4) 子どもの支援者を入れた会議を開く

シートのすべての欄への記入が済んだら、子どもや家族の同意を得て、子どもの支援者を入れた合同会議を開催します。

子どもの支援者は、子どもの育ちのニーズを満たすために必要だと思われる人すべてが対象となりますので、子どもや家族とよく話し合っていて決めていきます。

子どもの支援者へ合同会議の参加を呼び掛ける際には、子どもや家族、担当者が訪問するなど、直接会って会議のねらいをしっかりと丁寧に説明することが、成功の鍵になります。

会議では、子どもや家族の持つ「強み」をより伸ばすためには、今後、どのように子どもの育ちのニーズを満たしていけばよいか、子どもや家族の持つ「困難」を支援していくためには、今後、どのようにすれば家族の力で子どもの育ちのニーズを満たすことができるようになるのかについて意見を出し合い、具体的な内容を左の欄から順番に加筆していきます。

(5) 子どもや家族に話を聴く

担当者は、合同会議の参加者全員が、本当の気持ちを十分に伝えきれないことを前提とした対応が求められることから、会議開催の翌日には、必ず子どもや家族、子どもの支援者へ連絡をして、「参加した感想」や「その場で言えなかったことがなかったか」等を問いかけながら、会議の感想とその理由と改善方法を丁寧に聴き取っていきます。

できれば、事前に子どもや家族、子どもの支援者と個別でしっかりと話を聴き取り、不安や心配なことがあれば、会議の場でそれを話題にすることが必要です。

III 支援の実施

1 支援の進捗を確認する

支援が開始されたら、担当者を中心にその進捗を確認します。

とりわけ、子どもや家族については、1週間に1回程度は連絡を取るなどして、進捗状況を丁寧に聴き取ります。

もし、進捗状況が思わしくなければ、面接や訪問の機会を設定して、その時点で計画の調整を行います。

調整は、支援の方向性や具体的な内容の変更ではなく、それを維持しながら、どの程度なら取り組むことができるかという目標を下げるようにします。

支援が進捗しないことが問題ではなく、進捗できるような目標になっていなかったことに焦点を合わせて、しっかりと話し合いを行います。

2 子どもへの影響を確認する

支援が開始されたら、子どもへの影響も確認します。

支援は、子どもの育ちのニーズが、満たされることを目指しています。

支援の開始は、子どもにどのような影響がもたらされているでしょうか。

子どもへの影響の確認は、子ども自身に聴くことがもっとも望ましい方法です。家族は、常に子どもと一緒に暮らしていることから、その影響がなかなか分かりにくい場合が多いからです。

そのためには、子どもが安心して話ができる状況を創ったうえで、子どもから話を聴いていきます。

また、子ども自身に聴いた影響で確認が必要な内容がある場合には、子どもの暮らしにもっとも身近な子どもの支援者の力を借ります。

もし、支援を開始したことが、子どもにとって良い影響を及ぼしていないと判断するような事態が起こっていたら、速やかに一旦それを中止して、その理由を子どもや家族、子どもの支援者と検討するための会議を招集しましょう。

そのようにして、支援を実施している間も、子どもに焦点を合わし続けることを忘れず、その安全には細心の注意を払う必要があります。

IV 支援の振り返り

1 合同会議を設定する

支援計画で決めた日程に沿って、ここまで展開してきた相談支援活動を振り返るための合同会議を開催します。

会議は、支援計画を策定したときと同じ参加者を集めて開催します。

それまでの間に、もし、新たな子どもの支援者が支援に携わっていたら、子どもと家族の同意を得て会議への参加を依頼します。

会議を設定する期間は、子どもが置かれている現状によって様々ですが、一定の変化を見て振り返るためには、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年といった間隔が望ましいと思います。

2 再度計画に活かす

合同会議では、前回合意した支援計画の内容と支援の進捗状況に基づいて話し合いを行います。

支援計画の中でも、とりわけ「期待される成果」が得られているかどうか注目します。

そして、もし得られている場合は、「具体的にどのような働き掛けがよかったと考えられるのか」「このままの働き掛けを続けると、どのくらいで子どもや家族の力でそれを満たすことができそうか」などについて話し合い、内容を共有します。

一方、もし得られていない場合は、「なぜ得られていないのか」「もう少し時間を置く必要があるのか」「働きかけの内容を新たに考えたほうがよいのか」等について話し合い、振り返った結果を再度、支援計画に活かしていきます。

「期待される成果」が達成され、子どもや家族の力でその領域のニーズを満たすことができると判断された場合は、訪問などによる事実確認と、子どもと家族、子どもの支援者との合意を経て、担当者が機関（組織）の判断と責任でその領域への相談支援活動を終結します。

そのようにしながら、すべての領域について同様の判断を行っていき、最終的な相談支援活動の終結を決定します。

子どもの育ちのニーズシートの使い方

子どもの育ちのニーズシート

I 概要

子どもを対象とした相談支援活動を展開していくためには、相談の開始から支援の終結まで、一貫して「子ども」に焦点を当て続けることが重要です。

そして、「子どもの育ちのニーズは満たされているのか」「子どもが、親やその家族との暮らしの中でどのような経験をしているか」「子どもが、虐待やネグレクトを経験することなく、安心して暮らせるようにするにはどうすればいいのか」に関心を集中させる必要があります。

ニーズシートは、「支援を必要としている子どもの育ちのニーズが、親の養育力と子どもを取り巻く家族や環境の相互作用によって、現在どのように満たされているのか」という視点に立って、子どもとのやりとりを中心に情報収集を行い、子どもと家族と子どもの支援者が参画した会議で、その評価について話し合うことを通じて、子どもに起きている出来事の意味合いを理解して、「どのような支援を」「いつまでに」「誰が」「期待する成果は何か」などを決めた支援計画を策定することを目的としたアセスメントツールです。

ニーズシートは、岡山県が英国の教育省の許可を得て開発した『子どものための総合情報アセスメントシステム』^{※11}にある『コア・アセスメント』を取り出し、支援を必要としている子どもと家族、子どもの支援者が支援に参画しながら協働していくことを目指してデザイン化したものです。

ニーズシートは、子どもの育ちのニーズとそれを満たす親の具体的なサポートが、子どもの発達に応じて変化していくことから、子どもの発達の段階に応じて「0～12ヶ月未満用」「1歳～3歳未満用」「3歳～就学前用」「小学生用」「中学生用」「16歳以上用」の6種類作成しています。

※11 **子どものための総合情報アセスメントシステム**：英国の「子どもの総合情報システム（The Integrated Children's System:ICS）」を基に、日本の児童相談所の業務の流れに合わせて改良したアセスメントシステムで、2009(平成21)年度から開発を開始し、2013(平成25)年度から導入している。

1 目的

ニーズシートは、次に挙げた3つの目的を達成することを目指しています。

(1) 子どもの暮らしを中心に置いて現状をとらえる

1つめの目的は、子どもの暮らしを中心に置いて、子どもと家族を取り巻く暮らしの現状をとらえることです。

そのためには、直接子どもに焦点を当てて情報を収集することが重要になります。

今までも、子どもを育てている親とその家族や環境の情報を収集することを通じて子どもに焦点を当ててきていましたが、ニーズシートは、子どもとのやりとりを中心に親の養育力と家族や環境の情報を収集していくことで、直接子どもに焦点を当てていきます。

(2) 当事者の参画

2つめの目的は、子どものための相談支援活動を展開していく過程に、当事者である子どもと家族が当たり前に参加しながら、子どもの支援者と協働していくことです。

そのためには、ニーズシートを情報収集の手段ではなく、子どもと家族が（情報収集の過程に）参画したことで、「自分たちの暮らしを振り返ることができた」等の「自分たちの暮らしを客観的に理解できるようにすること」や、「何に困っているかがはっきりした」等の「自分たちの感情を表出する機会を得ること」、そして「大変なことも多いけれど、できていることも見つかった」等の「自分たちや環境の持つ強さを認識して自信を得ること」が感じられるようなやりとりをすることが重要です。

ニーズシートを介したやりとりは、双方向で行われることによってお互いの理解を深め、変化の機会を創り出すことに繋がります。

(3) 現状と方向性、具体的な支援内容の共有

3つめの目的は、子どもと家族、子どもの支援者が、アセスメントの枠組みで整理した子どもの育ちのニーズの満たされ方の現状と今後の相談支援活動の方向性、具体的な支援内容を共有することです。

そのためには、現状について話し合うことを通じて、子どもに起きている出来事の意味合いを理解して、「いつ」「どのように」「誰が支援をするのか」を決めた支援計画を一緒に策定することが重要になります。

2 対 象

ニーズシートは、児童福祉法（昭和22年12月12日法律第164号）で定められている「要保護児童」を対象としています。

そして、対象となる子どもが小学校高学年以上の場合は、その子どもとのやりとりを中心に使用していきます。

3 内 容

内容は、アセスメントの枠組み^{※1}を構成している「子どもの育ちのニーズ」「親の養育力」^{※12}「家族と環境要因」^{※13}の3つの側面のうち、「子どもの育ちのニーズ」の7つの領域の満たされるべきニーズをわかりやすく具体化した質問項目を中心にして、「子どもの育ちのニーズの満たされ方の現状」を確認するとともに、それを「親の養育力がどう満たしているか」と「家族と環境はどうか」の2つ視点から確認できるものとなっています。

※12 親の養育力：ニーズシートでは、「親のサポート力」と表記しています。

※13 家族と環境要因：ニーズシートでは、「家族と環境」と表記しています。

4 構成

(1) アセスメントの枠組みの3つの側面

各ページの右上の角には、今、アセスメントの枠組みの3つの側面のどこを確認しているかわかるように、三角形の図の一部を赤色で示してあります。※図4

自己について の自覚	自分についての自覚		家族と環境
	自分についての自覚	家族と環境	
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境

図4 アセスメントの枠組みの三角形の図（※朱書き）

また、わかりやすいように上部にある色分けしたインデックスの一つひとつに子どもの育ちのニーズの7つの領域と家族と環境を記載しています。※図5

自己について の自覚	自分についての自覚		家族と環境
	自分についての自覚	家族と環境	
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境
自分についての自覚	自分についての自覚	家族と環境	家族と環境

図5 子どもの育ちのニーズの7つの領域と家族と環境インデックス（※朱書き）

(2) 子どもの育ちのニーズ

① 「子どもの育ちのニーズ」とは

ニーズシートを使用するためには、「子どもの育ちのニーズとは何か」を理解する必要があります。

子どもが人として成長していくためには、「子どもの育ちに必要で大切なこと」が、発達に応じて満たされていくことが欠かせません。

この「子どもの育ちに必要で大切なこと」が「子どもの育ちのニーズ」です。

子どもの育ちのニーズを支えているのは、子どもの発達に関する考え方です。

② 発達の事柄として「強さ」と「困難」が表面化しやすい

子どもの発達は、様々な要因の組み合わせから展開していきます。

そのため、子どもの育ちのニーズは、発達に関する事柄として「強さ」と「困難」が表面化しやすい傾向を持っています。

例えば、乳幼児の場合であれば、親や他の家族構成員との間にどのような愛着が形成されているのか、心身の発達、運動や言葉の発達に何か起きているのかなど、学齢児であれば、学校場面で落ち着きのなさや乱暴、学習の遅れ、意欲の低下、登校渋りなどの言動が見られているか、或いは学習への過度な没頭、他者との評価比較への過剰な反応はないかなどといった点です。

③ 「困難」が表面化している場合

もしも、発達に関する事柄に「困難」が表面化していたら、まず、それが表れ始めた時期に、子どもと家族にとって重要な出来事が起きていなかったのかどうか（きょうだいの出生、親の精神不調や失業、DV、離婚など）を確認することや、親や家族の持つ困難（経済的な困窮、夫婦不和、一貫性のない養育状況、過干渉、教育水準、ストレスの高さ、孤立、精神疾患、アルコール依存、反社会的行為など）の影響との関係を確認することが重要になります。

それから、子どもと家族がこの困難をどのように受け止めているのかを確認して、受け止められている場合といない場合の理由に耳を傾けます。

受け止められている場合であれば、なぜ、支援に結び付いていないのか、どうすれば支援に結び付けることができるのかを一緒に考えることが必要です。

受け止められていない場合であれば、発達に関する事柄に表面化している困難を受け止めるよう促すことによって、子どもの育ちのニーズに対する家族の関心が高まり、現状の受け止めが前向きなものになる可能性があるか、その後の療育や特別支援教育といった支援を確実に受けることが可能なのかという見通しを十分考え、具体的な支援に結び付けていくことが重要になります。

見通しを十分考えないで困難を受け止めるよう促すことは、かえって子どもと家族を苦境に追い込むことに繋がり、子どもの育ちのニーズを満たすこととは、本末転倒な結果になりますので注意が必要です。

④ ニーズシートの「子どもの育ちのニーズ」

ニーズシートでは、7つの領域それぞれに「子どもの育ちに必要なこと」の具体的な質問項目を設定しています。

「0～12ヶ月未満用」「1歳～3歳未満用」「3歳～就学前用」の年齢区分については、子どもの発達を考慮して「社会での自分の現し方」「自分で生きる知恵と技術」を除く、5つの領域で構成しており、それぞれに具体的な質問項目を設定しています。

質問項目を理解してやりとりをするためには、アセスメントの枠組みの「子どもの育ちのニーズ」の情報を収集していく際に必要な子どもの育ちのニーズを構成する7つの領域について理解しておく必要がありますので、表3（P12）を参照してください。

(3) 親のサポート力（育ちを支える力）

ニーズシートでは、親のサポート力を「子どもの育ちのニーズの7つの領域それぞれに設定した質問項目に対して、親がどのようにして子どもの育ちを支えているのか」確認するための質問項目として設定しています。

この質問項目は、子どもの育ちのニーズの7つの領域の質問項目に応じる形で親のサポート力を構成する6つの領域の内容が反映されています。

親のサポート力の6つの領域については、表4（P13）を参照してください。

(4) 家族と環境

ニーズシートでは、「家族史と家族機能」を「家族史」と「家族機能」に分けているため、8つの領域となっています。

この質問項目は、家族と環境の現状を確認する内容であり、他の2つの側面に比べると事実を確認することで終わってしまいがちなものとなっているため、確認のためにはその目的をしっかりと理解しておく必要があります。

家族と環境の7つの領域については、表5（P14）を参照してください。

(5) 子どもの育ちのニーズと親のサポート力の関係

ニーズシートは、見開きページの左側が子どもの育ちのニーズの質問項目、右側が親のサポート力の質問項目となっており、子どもの育ちのニーズの1つの領域について、「子どもの育ちのニーズの満たされ方」と、「親がどのように子どものニーズを満たしているか」が、一目でわかるようになっています。

(6) 年齢区分の選び方

ニーズシートは、子どもの実年齢に応じた区分を選ぶことを基本としていますが、子どもが障害を持っているなど、実年齢と発達に差が見られる場合は、実年齢に応じた区分と併せて、その子どもの発達の年齢に応じたニーズシートを参考に使います。

II 進め方

1 ニーズシートの使用手順

ここからは、ニーズシートを使用する手順とその内容を紹介していきます。※表10

表10 ニーズシートの使用手順とその内容

使用の手順	内 容
(1) 子どもが意見を伝える	① 安全な空間を創る ② 関係を創る ③ 目的を説明する ④ 言葉でのやりとり以外の表現にも注目する
(2) 親の話を聴く	① 認識を聴く ② 影響を及ぼしているものを聴く ③ 子どもの支援者の心配を聴く
(3) 強みをとらえる	① 満たされている質問項目に着目する ② 理由を丁寧に聴く
(4) 全体像をとらえる	① 子どもの人生と現在の暮らしを見過ごさない ② 強みと困難が及ぼす影響を見る
(5) 情報を共有する	① 現状と方向性、支援内容を共有する ② 情報共有の注意点
(6) 変化を見出す	① 経過を追う ② 変化を丁寧に見出す

(1) 子どもが意見を伝える

子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)第12条の子どもの意見表明権(意見を表明する権利)にもあるように、自身に関係することすべてについて、子どもは自らの意見を大人に伝える権利を持っています。

ニーズシートは、子どもが意見を伝えることを助ける有効なツールにもなります。どのような子どもであっても、大人に面と向かわれて話を聴かれると、緊張したり、不安になったりと会話が続かない場合もあります。

子どもとの間にニーズシートというツールが入ることで、話し合うための手掛かりとなり、子どもとコミュニケーションをとりやすくなります。

ニーズシートは、小学校高学年くらいの子どもから一緒に使うことができます。

① 安全な空間を創る

子どもが意見を伝えやすくするためには、子どもがニーズを語ることのできる安全な空間を創ります。

安全な空間とは、例えば、部屋は区切られており、話をした内容が隣に聞こえたりすることがない、プライバシーが守られた空間のことです。

空間は、広すぎると不安が高まりますし、狭すぎると圧迫感を感じますのでそれを配慮した部屋を準備する必要があります。

また、安全な空間を創るためには、話したことや意見を家族や子どもの支援者に伝えてもよいかどうか、子ども自身に再確認することが必要です。

そのようにすることは、子どもが「自分の意見が聴き届けられている」と感じることのできる重要な機会となります。

② 関係を創る

子どもとニーズシートを使う場合は、いきなり提示して多くの質問をするところから始めるのではなく、まずは、「この人は自分のことを理解してくれており、受け入れられている」と子ども自身を感じることができるような関係を創ることが必要です。そのためには、スポーツやゲームといった遊びから始める場合もあります。

③ 目的を説明する

安全な空間と関係が創れたら、ニーズシートを使う目的を説明します。

子どもの年齢や発達段階、一人ひとりの個性に応じて、実際のニーズシートを示しながら、わかりやすく丁寧に目的を説明していきます。

そして、わからないことや気になること、心配なことがあれば、いつでも質問や感想、意見を伝えることができることも説明します。

④ 言葉でのやりとり以外の表現にも注目する

子どもが意見を伝えやすくするためには、言葉でのやりとり以外の表現にも意見が含まれていることに注目します。

子どもの意見の伝え方は、大人のように言葉でのやりとりだけとは限らず、表情、しぐさ、態度などにも意見が現れることを理解しておく必要があります。

(2) 親の話を聴く

ニーズシートは、親の話を聴くためにも有効なツールになります。

① 認識を聴く

支援を必要とする子どもの親は、我が子の育ちのニーズを満たす自身のサポート力の強みや困難をどのようにとらえているのでしょうか。

② 影響を及ぼしているものを聴く

支援を必要とする子どもの親は、どのような問題が自身のサポート力に影響を及ぼしていると考えているのでしょうか。

③ 子どもの支援者の心配を聴く

ニーズシートのやりとりを通じて、子どもの支援者が心配している具体的な内容についても、親がどのように受け止めているのかについて聴くことができます。

(3) 強みをとらえる

子どもと家族、子どもの支援者と一緒にニーズシートを介したやりとりを行う際には、子どもの育ちのニーズと親のサポート力、家族と環境が抱えている困難だけではなく、強みもとらえます。

① 満たされている質問項目に着目する

ニーズシートを使用してみると、満たされていない質問項目もありますが、満たされているものもあることに気づくと思います。

② 理由を丁寧に聴く

ニーズシートの満たされている質問項目に着目して、その理由を丁寧に聴くことで、今後それを強みとして活用しながら、満たされ方が十分ではないものについては、親やその家族が力をつけていく支援に結び付けたり、適当な支援がない場合はそれを創る工夫をしたりするためのヒントを得ることができます。

(4) 全体像をとらえる

① 子どもの人生と現在の暮らしを見過ごさない

子どもを対象とした相談を受けるとき、表面化している出来事や現象、子どもの行動や状態に着目するあまり、子どもがこれまでどのように生きてきたのか、現在どのような暮らしを送っているのかを見過ごさないようにします。

② 強みと困難が及ぼす影響を見る

ニーズシートは、子どもの育ちのニーズと親のサポート力、家族と環境が抱えている強みと困難を把握することだけではなく、その相互作用が子どもの育ちのニーズに与える影響を見ていくことによって、子どもの暮らしを中心に置いて、子どもと家族を取り巻く暮らしの現状の全体像をとらえることができます。

(5) 情報を共有する

① 現状と方向性、支援内容を共有する

子どもと家族、子どもの支援者がアセスメントの枠組みで整理した子どもの育ちのニーズの満たされ方の現状と、今後の相談支援活動の方向性と具体的な支援内容の情報を共有することです。

そうした取り組みを行うことで、子どもが置かれている状況についての共通理解がすすみ、今後の相談支援活動の方向性と具体的な支援内容を共有しやすくします。

② 情報共有の注意点

ニーズシートを使用した情報の共有には、いくつか注意すべき点があります。

まずは、子どもと家族、子どもの支援者それぞれと使用したニーズシートの結果を同意なく共有しないことです。

それから、使用したニーズシートの結果は、主として使用している機関の責任で最終的な結果を確定します。

くれぐれも、子どもと家族、子どもの支援者が使用したニーズシートの結果を比較しながら提示することで家族の認識を改めさせるような指導を目的とした使用方法はしないようにしてください。

(6) 変化を見出す

① 経過を追う

ニーズシートは、子どもへの支援を開始してから1ヶ月後、3ヶ月後、半年後、1年後と経過を追うことによって、子どもと家族が置かれた状況の変化を見出すことが大切です。

変化を見出すことは、家族がよりよい方向に変わっていく力、特に親のサポート力を見出すことによって、今後の子どもの育ちのニーズの満たされ方の変化の可能性を予測することができるからです。

② 変化を丁寧に見出す

子どもが置かれている状況は、日々刻々と変わっていきます。

子どもへの支援を開始した結果、子どもの育ちのニーズがどのように満たされるようになったのか、それは親のサポート力や家族や環境の何によるものなのか等、変化を丁寧に見出していくことで、子どもと家族、子どもの支援者を含めた地域が持つ力や強みを改めて発見することに繋がり、より一層、子どもの支援に活かすことができます。

2 使用のポイント

(1) 子どもを中心に使用していくことが基本

ニーズシートは、担当者が子どもを中心に使用していくことが基本となります。

現在の子どもを対象とした相談支援活動では、親や家族、子どもの支援者といった大人が相談に訪れるか、通告をきっかけに大人との面接を中心に行う仕組みとなっていることから、ニーズシートを子どもと使うよりも大人と使うことが優先されてしまい、子どもと使うことが後回しになっているか、子どもと使っていない場合もあります。

しかし担当者は、もっとも支援を必要としている当事者は子どもであり、相談支援活動の結果を評価するのも子どもであることを忘れてはいけません。

相談援助活動の過程で、ニーズシートを使用していく順番は大人が先になっても、子どもが小学校高学年以上の年齢であれば、必ず子どもと一緒に使用するようになります。

(2) 質問項目について

① 子どもの育ちのニーズの質問項目

子どもの育ちのニーズの側面に設定している質問項目は、子どもの発達に応じた暮らしの現状を理解するために具体化された内容となっているため、「子ども」を主語にして、子どもと家族、子どもの支援者とのやりとりを進めていきます。

② 親のサポート力の質問項目

親のサポート力の側面に設定している質問項目は、親が子どもの育ちのニーズをどのように満たすようにサポートしているのかを理解するために具体化された内容となっているため、「親」を主語にして、子どもと家族、子どもの支援者とのやりとりを進めていきます。

ニーズシートは、「子どもの育ちのニーズが、親の養育力と子どもを取り巻く家族や環境の相互作用によって、現在どのように満たされているのか」という視点に立って使用することから、子どもと家族、子どもの支援者とのやりとりを進める際には、「親がサポートをしているかどうか」という事実だけではなく、「親のサポートが、子どもの育ちのニーズをどのように満たしているのか」という結果を見ていくことが重要です。

③ 家族と環境の質問項目

家族と環境の側面に設定している質問項目は、家族と環境が子どもの育ちのニーズへどのような影響を与えているのかを理解するために具体化された内容となっているため、「家族」と「子どもの暮らしを取り巻く環境」を主語にして、子どもと家族、子どもの支援者とのやりとりを進めていきます。

ここでは、親のサポート力の質問項目と同様に、「家族や環境はどうか」という事実だけではなく、「家族や環境は、子どもの育ちのニーズを満たすうえでどのような影響を与えているのか」という結果を見ていくことが重要です。

(3) 「はい◎/もう少し○/わからない△」欄について

① 「子どもの育ちのニーズを満たしているのか」という結果を記入

「はい◎/もう少し○/わからない△」欄は、「子どもの育ちのニーズを満たしているのか」という結果を踏まえて記入します。

質問項目でも記載したように、「親がサポートをしているかどうか」「家族や環境はどうか」といった事実だけで記入すると、「3つの側面の相互作用によって子どもの育ちのニーズが現在どのように満たされているのかを理解していくこと」が難しくなりますので、「子どもの育ちのニーズを満たしているのか」という結果を踏まえて記入することが重要です。

② 「はい◎/もう少し○/わからない△」の意味

結果の記入は、子どもの育ちのニーズが満たされている場合は「はい◎」、満たされ方が十分ではない場合は「もう少し○」、すぐには確認が難しい場合や現状が判然としない場合には「わからない△」としています。

③ 現状の目安

親やその家族、子どもの支援者とのやりとりで行った結果は、あくまでも現状の目安ですので、結果をより確かなものとするためには、その後、子どもが小学校高学年以上であれば、子どもと一緒に使って結果を確認すること、併せて家庭訪問を行うなどして実情を直接見ることが欠かせません。

(4) 支援計画の策定に向けたやりとり

ここからは、「はい◎/もう少し○/わからない△」の結果を踏まえて、子どもに起きている出来事の意味合いを理解し、今後の支援計画の策定へと繋ぎやすくするための具体的なやりとりの例を紹介します。

① 「はい◎」の場合

「はい◎」の場合は、次の例のように具体的な内容を聞きます。

子ども	例：「できている」と言ったわけを教えてください。
	例：どういうところから「できている」とわかったのか教えてください。
	例：お母さん（家族の人/その他の人）がそれをできているのは何でだと思いますか。あなたの考えたこと（思ったこと/感じたこと）を教えてください。

家族	例：何によってそのニーズを満たすことができますか。
	例：そうした力は、どこからもたらされているのでしょうか。
	例：もっとそのニーズを満たしていくとしたら何ができますか。

そうすることによって、子どもと家族、子どもの支援者を含めた環境が持つ強みを理解し、その力をさらに引き出すことにも繋がられます。

② 「もう少し〇」の場合

「もう少し〇」の場合は、次の例のように具体的な内容を聞きます。

子ども	例：どうなれば「できている」になると思うか教えてください。
	例：お父さん（家族の人/その他の人）にもうちょっとこうしてほしいということがあれば教えてください。
	例：お母さん（家族の人/その他の人）以外でそれを助けてくれる人がいますか。
	例：前にできていたことがありますか。もしあれば、前と何が違うと思うのか教えてください。

家族	例：そのニーズを満たすためには、何が必要だと考えますか。
	例：親として、もう一歩何ができますか。
	例：親以外に、誰かが満たすことができますか。
	例：以前と今では変化がありましたか。

そうすることによって、子どもと家族、子どもの支援者を含めた環境が持つ変化の可能性を把握し、子どもの支援者のキーパーソンを知ることにも繋がられます。

③ 「わからない△」の場合

「わからない△」がついた場合は、下の例のように具体的な内容を聞きます。

	例：「わからない」わけを教えてください。
子ども	例：このことは、他の誰に聞けばわかると思いますか。 (もしいるのなら) あなたは何でその人がわかると思うのですか。 (もしいないのなら) あなたは何でわかる人がいないと思うのですか。

	例：その理由を教えてください。
家族	例：誰か他にこのことがわかる人がいるでしょうか。 (もしいるのなら) 何でその人がわかると思いますか。 (もしいないのなら) 何でわかる人がいないと思うのですか。

そうすることによって、わからないことに繋がっている理由や新たな子どもの支援者、今は交流をしていないけれども子どもの支援を考えるうえで大切な親族を知ることにも繋がられます。

(5) 「現状とサポート」欄について

子どもと家族、子どもの支援者と質問項目を介したやりとりをして聴き取った内容は、各ページの右側にある「現状とサポート」の欄に記入します。

「現状とサポート」の欄は、記入できるスペースに限りがありますので、あらかじめ別に記録用紙を準備しておくことをお勧めします。

記入にあたっては、子どもの育ちのニーズの満たされ方や親のサポート力、家族と環境の現状だけではなく、過去との比較や未来の展望、子どもが語った親や家族のエピソード、親が語った子どもや家族のエピソードなど、聴き取った内容を具体的に記入していきます。

そうすることは、子どもに起きている出来事の意味合いを理解し、今後の支援計画の策定するための手掛かりとなります。

ニーズシートは、子どもと家族、子どもの支援者との信頼関係を大切にすることで、すべての記入は相談者が見えるように行うのが基本です。

(6) 目的に応じた使用方法を選ぶ

ニーズシートは、ここまでに紹介した使用方法以外にも、目的に応じた様々な使用方法があります。

例えば、子どもの支援者が、子どもと親やその家族について、すでに収集している情報の過不足を整理して確認を行うために使用する方法です。

相談の経験が増えることによって、段々と自分の考えに沿った情報だけを無意識に収集することを防ぐ意味で、そのような使用方法をすることがあります。

3 使用の実際

(1) 準備と心構え

ここでは、相談の開始からニーズシートの導入までの流れを説明していきます。

相談を開始するためには、まず、事前の準備と心構えが重要になります。

事前の準備と心構えが、その後の相談支援活動の展開を決めると言っても過言ではありませんので毎回丁寧に行います。

① 相談受付時の丁寧な対応

多くの場合、相談は電話での予約から始まります。

とりわけ公的機関へ相談の予約をする人は、すでに家族や友人、担任などの身近な子どもの支援者へ相談をしてきたけれども解決に至らず、事態が切迫していたり、混乱したりしている場合が多いと思われるため、電話を受けた人は、相手に安心感が伝わるように落ち着いた丁寧な口調で語りかけることを心がけます。

そして、何に困っているのか相談者の訴えに耳を傾け、なるべく来所しての相談へと導くようにします。

なぜなら、電話での相談は、匿名性が高い場合が多く、相談者の表情やしぐさなどが見えないことから、それだけでは問題の解決へ繋げることは難しいからです。

電話での相談内容は、きちんと記録をして残しておきます。

② コミュニケーションのニーズの把握

来所しての相談に繋がった場合は、緊急性と相談者の都合を優先して日時を決めます。そして、場所の説明を行い、誰と来所するのかを確認します。

特に日時について機関や担当者の都合を優先した設定を行うことは、相談者が機関に対して不信感を抱くことに繋がり、その後の相談支援活動の展開に影響を及ぼしやすいので注意が必要です。

来所の確認を行う際に忘れてはいけないのが、相談者の持っているコミュニケーションのニーズ（「言葉で伝えるのが苦手」「大勢の人がいると話したくない」「女性の職員が話しやすい」など）をあらかじめ把握しておくことです。

こういったことに配慮することは、相談者が考えや意見を表明しやすくするだけでなく、機関に対する信頼感を高めることに繋がります。

③ 安心できる面接環境の提供

来所日か、その前日には、電話での相談の記録に目を通しておきます。

電話を受けた人物と相談を受ける人物が異なる場合には、記録に目を通した後、電話を受けた人物から直接話を聴き、相談内容や相談者をイメージしておきます。

次に、来所する相談者の人数や障害の有無、危機管理上の観点などを考慮して使用する部屋を選び、来所時には、気持ちよく面接を受けることができるように事前に冷暖房を入れておくことも大切です。

そして、相談者が来所して面接室へ誘導したら、正面に向かい合うか、一席ずらすか、直角なのかなど、相談者の話しやすさを確認しながら配席を決めます。

(2) 導入に向けた説明

ニーズシートは、一義的な緊急対応の必要がないと判断した後に導入します。

ただし、使っている最中も、常に子どもの安全が守られているかという意識を持ち続けなければなりません。

ここからは、ニーズシートの導入の流れについて、子ども自身と家族それぞれとのやりとりの例を交えて説明していきます。

① 目的を説明して同意を得る

ニーズシートを導入するためには、まず、自分自身が「何のために（目的）」「誰が」「誰と一緒に使うのか」「どれくらいの時間（期間）で行うのか」「どのような結果をもたらすと考えているのか（予測）」を明確にする必要があります。

それから、子どもと家族、子どもの支援者などと一緒にニーズシートを使う相手にそのことを次のように伝えて同意を得ます。

子ども

例：あなたの悩みを解決するためには、今あなたがどのように暮らしているのか、あなたがどのように感じたり、考えたりしているのかを一緒に整理しながら聞かせてもらう必要があります。

《※ ここで「ニーズシート」を出して説明に入る》

このニーズシートは、そのために使えるものです。

ページを開くと左に“子どもの育ちのニーズ”とあって、あなたが成長するために必要で大切なことの質問があります。
右側には“親のサポート力”とあってお母さんやお父さん、家族の人たちがあなたが成長するために必要で大切なことを今どのように満たしているのか確認する質問項目があります。
そして、最後に“家族と環境”とあって、あなたの家族や家、生活のお金のことなど、あなたが成長するために必要で大切なことに与える影響を確認する質問があります。

これから、このニーズシートに沿って話をしようと思いますよろしいか。

わからないことや心配なことがあればいつでも言ってください。
そういう様子が見えたら、私からも声をかけます。

家族

例：お話を伺った結果、お子さんがどのように暮らしていて、何に困っているのかを理解しながら一緒に整理をしていくことが必要だと考えています。

《※ ここで「ニーズシート」を出して説明に入る》

このニーズシートは、そのために使えるものです。

ページを開くと左に“子どもの育ちのニーズ”とあって、お子さんの育ちを支えるために必要で大切なことの質問項目があります。
右側には“親のサポート力”とあってお母さんやお父さん、家族の人たちがお子さんの育ちのニーズを今どのように満たしているかを確認する質問項目があります。
そして、最後に“家族と環境”とあって、ご家族とそれを取り巻く環境がお子さんの“子どもの育ちのニーズ”に与える影響を確認する質問項目があります。

これからは、このニーズシートに沿って改めて整理しながらお話を伺いたいと思いますがよろしいでしょうか。

② 使用の見通しを一緒に創る

今までの相談援助活動の延長上で、このニーズシートを効果的に使っていくためには、使用の見通しを相談者と一緒に創ることが必要になります。

次のように説明しながら、使用の見通しを創っていきます。

子ども

例：ニーズシートは質問の数が多いから、今日と次回の2回に分けて一緒に使っていきます。もし、わからないことがあったら、それをわかる大人の人に話を聴きます。
その後、何でこのようなことが起きているのかということについて、改めて話し合いをしたいと思います。

最後には、あなたとお母さん、お父さん、おばあちゃんやおじいちゃん、あなたに関係がある人たちと一緒に、今後、どこを目指して応援すればいいか、応援の内容や応援の方法を考える会を開きたいと考えています。
そのときには、このニーズシートの結果に基づいて話をしたいと思います。

家族

例：ニーズシートは質問項目が多いので、今回と次回の2回の面接で一緒に使っていきます。もし、改めて必要な調査があれば実施をします。
その後、なぜこのような状態が起きているのかということについて、改めて話し合いをしたいと思います。

最終的には、お子さんやお母さん、お父さん、おばあちゃんやおじいちゃん、お子さんの支援に携わっている人たちと一緒に、今後の支援の方向性と具体的な支援の内容を考える会を設定したいと考えています。そのときには、このニーズシートの結果に基づいて話をしたいと思います。

使用の見通しは、相談者の都合と担当者の予定の調整をしながら創っていきます。くれぐれも担当者の都合を優先した一方的な見通しを相談者に押し付けることのないように注意が必要です。

(3) 情報を引き出す

① やりとりをしながら聴き取ること

ニーズシートは、質問項目に沿って、相談者とやりとりをしながら聴き取っていくことを基本としています。

質問項目は、多角的な視点から情報を引き出せるように設定しています。

また、質問項目の順番は、目的に応じて変えて進めてもかまいませんし、内容を頭に入れてポイントを押さえながら自分のスタイルで聴き取ってもかまいません。

質問項目に沿って、やりとりしながら進めていく際には、子どもの育ちのニーズが満たされていない（十分できていない）内容だけに着目するのではなく、満たされている（できている）内容に焦点を当て、相談者や家族が持つ「強み」の情報を引き出せるように努めることが重要です。

② 相談者への説明

ニーズシートは、使用の目的に応じて「子どもの育ちのニーズ」の側面以外の側面の質問項目から始めることも可能ですが、ここでは「子どもの育ちのニーズ」の側面の最初の質問項目から使用することを想定して説明していきます。

「子どもの育ちのニーズ」の最初の領域は「健康」です。

質問項目 H1「子どもは健康です。」から始める場合には、次のように投げかけます。

子ども	例：最初に、あなたの「健康」について教えてください。 あなたは健康だと思いますか。ここ半年位の間に、病気になったり、病院にかかったりしたことはありますか。 お母さんやお父さんがあなたの健康のために、気を遣ってくれていることがありますか。
-----	--

家族	例：最初に、お子さんの「健康」について教えてください。 お子さんは健康ですか。ここ半年位の間に、病気になったり、病院にかかったりしたことはありませんか。 お子さんの健康のために、取り組んだり、気を遣ったりしていることがありますか。
----	---

③ 「はい◎/もう少し○/わからない△」欄の記入

質問項目を通じて引き出した情報は、その内容を踏まえて、「はい◎/もう少し○/わからない△」のいずれか1つを、相談者自身が選んで記入欄に印をつけます。

相談者が、どの印をつけようかと迷っている様子が見られた場合は、迷っている具体的な理由を聴いていき、相談者が自ら印を選ぶのを待ちます。

それでも選べない場合には、無理に選ばずのではなく空欄のままにしておき、理由を具体的に聴き取ってその内容を記録しておきます。

「はい◎/もう少し○/わからない△」の印を相談者が自ら選ぶことは、大きな意味を持っています。

子どもや家族は、誰であっても自分自身のことや自分の子どもとの関わり方を立ち止まって客観的に見つめてみる機会は少ないと思います。

子どもの育ちのニーズの満たされ方を軸に客観的な視点を提供しているニーズシートは、担当者が一緒に質問項目のやりとりすることを通じて、印をつけることで自分自身のことや自分の子どもとの関わり方を可視化させることで、そうした機会を提供します。

子どもや家族は、自分自身で「はい◎」の印を選ぶことは難しく、多くの人は自分自身の暮らしや子育てに自信を失っている場合が多いことから「もう少し○」の印を選びがちになりますし、その逆のタイプの子どもや家族もいるかもしれません。

いずれにしても担当者は、まず「なぜその印を選ぶのか」という理由を自身で考えてみる必要があります。

また、「はい◎/もう少し○/わからない△」の印を相談者が自ら選ぶ過程では、印を選んだ理由を具体的なエピソードも交えながら聴き取ることが重要です。

具体的なエピソードを交えながら聴き取るとは、支援を考えるうえで大きな意味を持ちます。

例えば、「はい◎」に該当する具体的なエピソードが語られることは、子どもや家族をエンパワメントすることに繋がりますし、「もう少し○」に該当する具体的なエピソードが語られることは、それに対する問題意識を持ち、解決していく方向に導くきっかけを創ることに繋がるからです。

今までも説明をしていますが、子どもや家族とやりとりをしながら情報を引き出すのは、「親のサポートや家族と環境はどうか」ではなく、「親のサポートや家族と環境が、子どもの育ちのニーズをどのように満たしているのか」という内容であることを忘れてはいけません。

相談者が「わからない△」の印を選ぶ場合は、その理由を具体的に聴き取ってその内容を記録しておくことが必要です。

④ 変化をみる

ニーズシートは、チェックリストではありません。

そのため、「はい◎/もう少し○/わからない△」記入欄に印をつければ終わりといった使い方にならないようにします。

「はい◎/もう少し○/わからない△」欄は、あくまでも現時点での状態の評価であり、目安にすぎません。

参考文献

- 1) Dr.Om.Prakash Srivastava.(1995)“The Graded Care Profile (GCP) Scale—A qualitative scale for measure of care of children ～”,Luton safeguarding children board.
- 2) Department of Health et al. Framework for the Assessment of Children in Need and Their Families.London:HMSO (2000).
- 3) Adcock,M.(2001)“The core assessment: how to synthesise information and make judgements”, in Horwath,J.The Child's World: Assessing Children in Need. London: Jessica Kingsley.
- 4) Derby Safeguarding Children Board (2014) “Guidance for completing a Family Early Help Assessment”.
- 5) イギリス保健省・内務省・教育雇用省著松本伊智朗 屋代通子訳(2002)『子ども保護のためのワーキング・トゥギャザー—児童虐待対応のイギリス政府ガイドライン—』,医学書院.
- 6) 水島真寿美福 知栄子(2004)「ネグレクトケースへの支援—ソーシャルワークの視点とアセスメント—」『福祉おかやま(日本ソーシャルワーカー協会岡山支部岡山ソーシャルワーカー協会)第22号』,18-23.
- 7) 中野敏子,福 知栄子,瀧澤久美子,森山千佳子(2005)『誰のため何のため』どう活かすあなたの支援『基本のキ—障害のある学童期の子どものために—』,大揚社.
- 8) 児童自立支援計画研究会編(2006)『子ども・家族への支援計画を立てるために—子ども自立支援計画ガイドライン—』,516-518.
- 9) 岡山県 (2007)「岡山県子ども虐待防止専門本部委員会報告書—児童虐待防止に向けて—」(<http://www.pref.okayama.jp/hoken/kosodate/gyakutaihokoku190604.pdf>).
- 10) 岡山県子ども虐待防止専門本部児童相談に係る基準等作成グループ(2008)「児童相談に係る基準等の作成に関する検討状況報告書—子どもたちの最善の利益のために—」.
- 11) 岡山県(2008)『市町村子ども虐待対応ガイドライン—子どもたちの最善の利益のために—』.
- 12) 浅田浩司(2008)『「児童虐待」に関する一考察』『福祉おかやま(日本ソーシャルワーカー協会岡山支部岡山ソーシャルワーカー協会)第25号』,20-33.
- 13) 岡山県(2009)『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)』(<http://www.pref.okayama.jp/page/detail-37642.html>).
- 14) 福田敏彦(2009)『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)について』『福祉おかやま(日本ソーシャルワーカー協会岡山支部岡山ソーシャルワーカー協会)第26号』,21-25.
- 15) 岡山県子ども虐待防止専門本部児童相談に係る基準等作成グループ(2010)『子どものニーズを満たす親への支援—基本的な考え方とソーシャルワークの重要性—』.
- 16) 薬師寺 真三宅尚美水島真寿美福 知栄子(2010)『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)の意義とその活用について』『第16回岡山県保健福祉学会(おかやま保健福祉研究)』30-31.
- 17) 青井美帆,薬師寺 真三宅尚美水島真寿美福 知栄子(2010)『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)について—岡山県の取り組みから—』『全国児童心理司会会報』.
- 18) 薬師寺 真(2011)「行政等の取り組み事例 子どもたちの育ちを支援する『子どもが心配』チェックシート(岡山版) 2011年6月1日発表『愛育ねっと』日本子ども家庭総合研究所(http://www.aiikunet.jp/practice/government_example/141.html).
- 19) 岡山県福祉相談センター,岡山県中央児童相談所,岡山県倉敷児童相談所,岡山県津山児童相談所(2011)『岡山県子ども福祉実践研究集録—第1集—』.
- 20) 杉本信子(2011)『平成23年度 あしあと 幼稚園PTA人権教育研修会の記録』(浅口市教育委員会・浅口市人権教育推進協議会).
- 21) 田代充生,山本恒雄(2012)「虐待予防に関する児童相談所と市町村の連携について」『子ども家庭総合研究所 紀要 第48集』.
- 22) 薬師寺 真(2012)「岡山県の取り組み—「子どもが心配」チェックシート(岡山版)の開発と活用—」平成24年度全国児童福祉主管課長・児童相談所長会議資料.
- 23) 田代充生,山田良一(2012)「鎌倉三浦地域児童相談所における親子再統合の支援について」『紀要 Vol.13 2012』,神奈川県立総合療育センター,神奈川県児童相談所,8-15.
- 24) 福 知栄子,梅野潤子,薬師寺真三宅尚美(2012)「子どもを中心としたニーズアセスメントを地域で実践するために—岡山県『子どものための総合情報アセスメントシステム』を事例として—」『中国学識紀要 第11号』,155-162.
- 25) 杉本信子(2012)『平成24年度 あしあと 幼稚園PTA人権教育研修会の記録』(浅口市教育委員会・浅口市人権教育推進協議会).
- 26) 岡山県福祉相談センター,岡山県中央児童相談所,岡山県倉敷児童相談所,岡山県津山児童相談所,岡山県立成徳学校(2013)『岡山県子ども福祉実践研究集録—第2集—』.
- 27) 岡山県福祉相談センター,岡山県中央児童相談所,岡山県倉敷児童相談所,岡山県津山児童相談所,岡山県立成徳学校(2013)『岡山県子ども福祉アーカイブズ—第1集—1948～1954 児童相談所の黎明期から確立期』.
- 28) 岡山県(2013)『子どもの健やかな育ちを願うあなたへ—ひとりて悩んでないで相談してね—(パンフレット)』.
- 29) 薬師寺真(2013)『「子どもが心配」チェックシート(パンフレット版)の開発と活用』『子どもの虹情報研修センター—紀要(11)—』,横浜博明会子どもの虹情報研修センター,99-110.
- 30) 大盛 昌(2013)「人と人をつなぐきっかけ作り—「子どもが心配」チェックシートを活用した学習会—」『福祉おかやま(日本ソーシャルワーカー協会岡山支部岡山ソーシャルワーカー協会)第30号』,26-32.
- 31) 岡山県福祉相談センター,岡山県中央児童相談所,岡山県倉敷児童相談所,岡山県津山児童相談所(2013)『岡山県児童相談所職員研修報告書—第1集—』.
- 32) 岡山県(2013)『市町村子ども虐待対応ガイドライン—子どもの暮らしの安定に向けたよりよい協働のために—』.
- 33) 子どものための総合情報アセスメントシステムを活用した地域支援事業に係るワーキング(2014)『子どもの育ちのニーズシート』.
- 34) 岡山県福祉相談センター,岡山県中央児童相談所,岡山県倉敷児童相談所,岡山県津山児童相談所(2014)『岡山県児童相談所職員研修報告書—第2集—』.
- 35) 福 知栄子,梅野潤子,薬師寺真三宅尚美(2014)「青年の参加を促進する教育的アプローチ—「子どもが心配」チェックシート」の活用を通して—」『中国学識紀要 第13号』,121-130.
- 36) 岡山県福祉相談センター,岡山県中央児童相談所,岡山県倉敷児童相談所,岡山県津山児童相談所(2015)『岡山県児童相談所職員研修報告書—第3集—』.
- 37) 青井美帆(2016)「岡山県における取組—子どものための総合情報アセスメントシステムの活用に向けた取組(経過報告)—」平成28年度全国児童相談所所長会議報告資料.
- 38) 山添陽子(2016)「子どもの思いを聴き取る児童福祉司による取り組み—解決志向アプローチの子ども支援ツールを活用して—」『福祉おかやま(日本ソーシャルワーカー協会岡山支部岡山ソーシャルワーカー協会)第33号』,35-42.
- 39) 厚生労働省児童虐待防止対策推進本部(2016)「児童相談所強化プラン」
- 40) 薬師寺 真(2016)「岡山県版「アセスメントツール」の開発と活用—当事者・市町村・地域等との子どもを中心においた要支援モデルの共有に向けた試み—岡山県の取り組み—」厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 第5回市区町村の支援業務のあり方に関する検討ワーキンググループ資料(<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000146795.html>).

資料編

子どもの育ちの二ーズシート

I. 0ヶ月～12ヶ月未満用	51～62
II. 1～3歳未満用	63～76
III. 3歳～就学前用	77～90
IV. 小学生用	91～108
V. 中学生用	109～126
VI. 16歳以上用	127～144

子どもの育ちの ニーズシート



生まれてくる子どものニーズ



生まれてくる子どものニーズ

	子どもの育ちに必要で大切なこと	はい◎ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
UB1	妊娠中は、葉酸などを含むバランスのとれた食事をしています。		
UB2	私の健康に問題はありません。		
UB3	妊娠は、合併症もなく順調にすすんでいます。 ・切迫流産やひどいつわりなどがあれば、通院するなど適切に対応しています。		
UB4	妊娠がわかった時から定期的に産科で健診を受けています。		
UB5	お腹の赤ちゃんは順調に発育しています。		
UB6	私も家族もたばこを吸いません。		
UB7	私は約20週までに、おなかの中の赤ちゃんが動くことに気づいています。		
UB8	私は、麻薬や覚せい剤、シンナー等の薬物を使用したことはありません。		
UB9	私は飲酒をしていません。		
UB10	この妊娠中に、風しんにかかったことはありません。		
UB11	この妊娠中に、エイズあるいは他の性感染症にかかっていません。		
UB12	妊娠中に暴力を受けていません。		



The needs of the unborn child

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そ だ ひ つ よ う た い せ つ	は い ○ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げ ん じ ょ う 現 状 と サ ポ ー ト
UB13	わたし には 妊 娠 中 から 生 ま れ て く る こ ども の た め に 準 備 を し て い ま す。		
UB14	わたし の 家 は、 生 ま れ て く る こ ども に と っ て 安 全 で す。		
UB15	わたし は こ ども が 生 ま れ て く る こ と を た の し み に し て い ま す。		
UB16	わたし たち に は 育 児 に 協 力 的 で 信 頼 で き る 親 戚 や 友 人 が い ま す。		
UB17	わたし は 今 ま で に 産 後 う つ 状 態 に な っ た こ と は あ り ま せ ん。		
UB18	う ま れ て く る こ ども を 自 分 たち 二 人 の て で 育 て る こ と を 希 望 し て い ま す。		
UB19	わたし 二 人 の す べ て の こ ども は、 こ れ ま で 児 童 相 談 所 や 市 町 村 の 児 童 家 庭 相 談 担 当 窓 口 の 支 援 を 受 け た こ と は あ り ま せ ん。		
UB20	わたし 二 人 の す べ て の こ ども は、 こ れ ま で 一 時 保 護 や 児 童 養 護 施 設 ・ 里 親 等 の 制 度 を 利 用 し た こ と は あ り ま せ ん。		

親のサポート力

けんこう
健康



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と こ そだ ひつよう たいせつ	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじよう 現 状 と サ ポ ー ト
H1	あか せいきさん しゅう しゅうみまん う 赤ちゃんは正期産（37週～42週未満）で生まれました。		
H2	こ ども は、 けんこう です。 かこ げつかん しゅうかんいらい たいちようふりようとう けんこう かんが ・過去6か月間に1週間以内の体調不良等であれば健康と考えてよい。		
H3	しんちょう たいじゆう どうい げつれい おう 身長、体重、頭囲は月齢に応じています。		
H4	ちようりよく しりよく ちんだい 聴力や視力には問題がなさそうです。		
H5	ひつよう よぼうせつしゅ う 必要な予防接種を受けています。		
H6	そだいうんどう げつれい おう 粗大運動は月齢に応じています。 ・2～3か月：床から頭と肩を持ち上げられる。 ・3～4か月：一定時間頭を上げておける。 ・5～6か月：仰向けからうつ伏せへ寝返りができる。おとなの膝の上に乗れる。 ・7か月：支えなしで座れる。 ・9か月：つかまって立ちあがる。 ・12か月：手を引かれたり、支えられると歩く。		
H7	ひさいうんどう げつれい おう 微細運動は月齢に応じています。 ・3～4か月：持たせるとおもちゃをつかんでいる。 ・5～6か月：自分から手を出して物をつかむことができる。 ・6～7か月：物を手から手へ持ちかえる。 ・12か月：親指と人さし指で小さい物がつまめる。		
H8	こ ども に は、 お な か の 中 に い る と き に や く ぶ つ アルコールの影響を受けた症状や徴候は見られません。		
H9	あか 赤ちゃんは、これまでにケガをしたことは一切ありません。		

Health



	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
H10	あか げつれい あ てきせつ えいよう 赤ちゃんは、月齢に合った適切な栄養のある しよくじ りにゆうしよく ふく あた 食事（ミルクや離乳食を含む）を与えられて います。		
H11	あか ね ばしょ せいけつ かいてき 赤ちゃんが寝る場所は、清潔で快適です。		
H12	あか まいにち ふろ い 赤ちゃんは、ほとんど毎日お風呂に入れても らい、せいけつ たも らい、清潔が保たれています。		
H13	あか いってい かんかく か 赤ちゃんは、おむつを一定の間隔で換えても らっています。		
H14	あか ひつよう いりよう ていきけんしん う 赤ちゃんは、必要な医療や定期健診を受けさ せてもらっています。		
H15	ひつよう よぼうせっしゆ ばあい 必要な予防接種ができていない場合、その りゆう てきせつ せつめい 理由について適切な説明ができます。		
H16	あか びょうき いがくてき しんだん 赤ちゃんの病気について、医学的な診断がな されています。		
H17	わたし ふたり びょうき とき あか あんしん 私たち二人は、病気の時に赤ちゃんが安心す るようかんびょう るように看病しています。		
H18	あか てきせつ てあて 赤ちゃんがケガをしたら、いつも適切に手当 をしています。		
H19	わたし ふたりとも あか ひがひ 私たちは二人共、赤ちゃんをあらゆる被害か らまも ら守っています。		

親のサポート力

きょう いく
教 育



子どもの育ちのニーズ

	こ 子どもの育ちに必要なで大切なこと そだ ひつよう たいせつ	は い◎ もう少し○ わからない△	げんじよう 現状とサポート
E1	<p>ことばの発達^{はつたつ げつれい}は月齢^{あう}に応じています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1か月^{げつ おんせい}：音声^{はつ ようこ}を発して喜ぶ。 ・3か月^{げつ おんせい なんご}：音声^{はつ}（喃語）を発するなどして家族とふれあう。 ・6か月^{げつ じぶん}：自分から「アブブー」などと違う発音^{ちが}を重ねた発声^{はつ}をしたり、喃語^{なんご}を発したりする。 「ママ」「パパ」などのことば^{ことば}を理解^{りかい}する。 ・10か月^{げつ おと かい}：音を介^{あそ}して遊ぶ^{あそ}ことを楽しむ。「バイバイしましょ^のう」と言うと、バイバイをする。 		
E2	<p>認知^{にんち}の発達^{はつたつ げつれい}は月齢^{あう}に応じています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1か月^{げつ}：いつも世話^{せわ}をしてくれる人^{ひと}に抱っこ^だされた時^{とき}、安心^{あんしん}して身^みをゆだねる。 ・3か月^{げつ}：周囲^{しゅうい}の物^{もの}へ興味^{きょうみ}を示す。 ・9か月^{げつ}：おもちゃ^{おも}が落ちるとその方向^{ほうこう}をじっと見る。 目の前^{め まえ}のおもちゃ^{おも}が隠^{かく}されても、そこにあることを理解^{りかい}し、じっと見て、その後^{のち}それを探^{さが}す。 		
E3	<p>9か月^{げつ}までに「だめ」などの禁止^{きんし}のことば^{ことば}がわかります。</p>		

Education



	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
E4	あか あんぜん あそ み まわ 赤ちゃんは安全なおもちゃや身の回りにある あんぜん 安全なもので遊んでいます。 ・安全とは、素材、形状、着色に配慮されていること。		
E5	あか あんぜん あそ ばしよ 赤ちゃんが安全に遊べる場所があります。 ・寝返りやハイハイする時、周りに危険なものを置いていな い。 ・つかまり立ちをする時に、不安定なものを置かない。 ・出入り口や階段にベビーガードを設置している。		
E6	ささいなことでも、あか 赤ちゃんができたことを ほめています。		
E7	あか ぜんめんてき う い 赤ちゃんを全面的に受け入れてあげようとい う気持ちを持って、その子を求め(状況)に きも こ ちよ じょうきよう おう はな した した 応じて話しかけたり、歌を歌ったりしていま す。 そして、それにあか こた ひょうじょう 赤ちゃんが応えて、表情など ひょうげん う と で表現することを受け止めています。		
E8	あか いっしょ えほん み おんがく き 赤ちゃんと一緒に絵本を見たり、音楽を聴い たり、本を読み聞かせています。		
E9	あか あんぜん しゅうい たんさく きょうみ 赤ちゃんは安全に周囲を探索する(興味を ちよ さが さわ 持って探したり、触ったりするなど) ことが できます。		

親のサポート力

じょう ちょ こう どう はっ たつ
情緒・行動の発達



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と こ そだ ひつよう たいせつ	は い◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
B1	あか 赤ちゃんはスキンシップを喜びます。 よるこ		
B2	たいてい満足そうで、穏やかです。 まんぞく おだ		
B3	よく笑い、幸せそうです。 わら しあわ		
B4	あか 赤ちゃんは、他の人の気持ちに気づき始めて います。 ほか ひと きもち きづき はじ ・6か月：きょうだいが泣くと、赤ちゃんも泣く。		
B5	人見知りや月齢に あう 応じてあり、それほど激し くありません。 ひとみし げつれい		
B6	あか 赤ちゃんは、比較的長い時間、機嫌良く過 すことができます。 ひかくてきなが じかん きげんよ す		
B7	あか 赤ちゃんが泣くと、タイミング良くあやされ ます。 な よ		
B8	ようじんぶか 用心深さは月齢に あう 応じてあります。また、 けいかいしん つよ 警戒心はそれほど強くありません。		
B9	ふかい ひょうじょう つづ 不快な表情が続くことはありません。		



Emotional and Behavioural Development



親のサポート力

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そ だ ひ つ よ う た い せ つ	は い 〇 も う 少 し 〇 わ か ら な い △	げ ん じ ょ う 現 状 と サ ポ ー ト
B10	わ た し ふ た り あ か じ ょ う ち ゃ ん の 情 緒 的 な ニ ー ズ に 私 達 二 人 は、 赤 ち ゃ ん の 情 緒 的 な ニ ー ズ に い つ も 応 え て い ま す。		
B11	わ た し ふ た り あ か と き お だ 私 達 二 人 は、 赤 ち ゃ ん が む ず か る 時 に、 穏 や か で 一 貫 し た 態 度 で 接 し て い ま す。		
B12	わ た し ふ た り あ か て き せ つ 私 達 二 人 は、 赤 ち ゃ ん と 適 切 な ス キ ン シ ッ プ を と る と、 喜 び を 感 じ て い ま す。		
B13	ひ な ん て き い あ か む 非 難 や 敵 意 が 赤 ち ゃ ん に 向 け ら れ る こ と は あ り ま せ ん。		
B14	あ か た た 赤 ち ゃ ん が 叩 か れ る よ う な こ と は あ り ま せ ん。		
B15	わ た し ふ た り あ か こ ま と き 私 達 二 人 は、 赤 ち ゃ ん の こ と で 困 っ た 時 に、 助 け や ア ド バ イ ス を 求 め た こ と が あ り ま す。		

かぞく しゃかい かんけい
家族・社会との関係



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現状とサポート
F1	<p>しゃかいせい ほんたつ げつれい おう 社会性の発達は月齢に応じています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～3か月：おとなが笑いかけると笑う。 抱っこすると喜ぶ。 ・5～6か月：母親と他の人を区別する。 ・11～12か月：父親や母親の姿が見えないと後追する。 		
F2	<p>しんせき かぞく ゆうじん みな ひと とし 親戚や家族の友人など、見慣れた人とい るときは、穏やかで落ち着いています。 (10か月～12か月)</p>		
F3	<p>げつ げつころ あいちゃくこうどう しめ 10か月～12か月頃までに愛着行動を示 します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親が部屋から出ていくと泣き出す。 ・親が戻ってくると喜ぶ。 ・親が戻ってきても変な態度をとらない(不機嫌に見える、怖 がっている様子がない)。 		
F4	<p>げつご しゃかいせい 9か月以後になると、社会性がはぐくま れる遊びが見られます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いないいないばあ」や「オツムテンテン」など、おとなとの やりとりを楽しむ。 ・1つの遊びがしばらく続く。 		
F5	<p>しょくじ しゅうしん じぶん いし しめ はじ 食事や就寝について、自分の意志を示し 始めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかわる人の好き嫌いを表す。 		



Family and Social Relationships

	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
F6	あか おじょうけん なん み かえ ちと 赤ちゃんを無条件（何の見返りも求めず）に あい 愛しています。		
F7	あか な とき お っ たいおう 赤ちゃんが泣きやまない時、落ち着いて対応 できます。		
F8	あか かいてき す き くば 赤ちゃんが快適に過ごせるように、気を配り すみ やかに たいおう 速やかに対応しています。		
F9	おや よういくしゃ はたら たい あか 親／養育者からの働きかけに対して、赤ちゃん が きたい はんのう 期待した反応をしなくても、受け入れら れます。		
F10	あいかやくかんけい きま あか しっかりとした愛着関係を築くために、赤ちゃん とおお じかん す んと多くの時間を過ごしています。		
F11	あか きもち よ そ 赤ちゃんの気持ちに寄り添ったことばかけや あそ び 遊びなどのやりとりをしています。		
F12	あか ぼうげん ぼうりよく みき こわ 赤ちゃんが暴言や暴力を見聞きするなどの怖 い おも しま い思いをしないように守っています。		
F13	あか しんせき おや よういくしゃ ゆうじん 赤ちゃんを親戚や親／養育者の友人のところ へ つ 連れて行っています。		
F14	しんらい とくてい き 信頼できる特定のおとなが気にかけてくれ て います。		
F15	あか よういく せいかつ あんてい 赤ちゃんの養育や生活のスタイルは、安定し て います。また、その じょうたい けいぞく 状態は継続しています。		

親
の
サ
ポ
ー
ト
カ

かぞく かんきょう
家族と環境



かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報		はい いい わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE1	家族史		
FE2			
FE3	家族機能		
FE4			
FE5			
FE6			
FE7			
FE8			
FE9			
FE10			



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ い いえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE11	家族機能	子どもと生活している家族の人の中で、飲酒や薬物問題のある人がいます。		
FE12		子どもと生活している家族で、暴力を受けた経験があるおとながいます。		
FE13		家庭内で口論や喧嘩など、もめることが多いです。		
FE14	親族	親族が直接的な援助をしてくれています。		
FE15		親族が精神的な支えになってくれています。		
FE16		親族が経済的な援助をしてくれています。		
FE17		親族が情報提供やアドバイスをしてくれています。		
FE18		私たち家族の中に子どもの養育を助けてくれるおとながいます。		
FE19	住居	私たち家族には、住む家がありません。		
FE20		私たち家族は、居候や車中生活するなど、居所が定まりません。		
FE21		住居や周辺の環境は、子どもが暮らす上で安全です。		

けんこう
健康



子どもの育ちのニーズ

	こ ぞ だ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い◎ もう少し○ わからない△	げんじよう 現状とサポート
H1	こ けんこう 子どもは健康です。 かこ げつかん しゅうかんいせい たいちようありようていど けんこう ・過去6か月間に1週間以内の体調不良程度であれば健康と かんが 考えてよい。		
H2	しんちよう たいじゅう とうい ねんれい おう 身長・体重・頭囲は年齢に応じています。		
H3	ちようりよく しりよく もんだい 聴力や視力には問題はなさそうです。		
H4	ひつよう よぼうせっしゅ う 必要な予防接種を受けています。		
H5	そだいうんどう ねんれい おう 粗大運動は年齢に応じています。 さい げつ り ある ・1歳3か月：1人で歩ける。 さい げつ かし ・1歳4～6か月：走れる。 さい だん りようあし かいだん しようこう ・2歳：1段ごとに両足をそろえ、階段を昇降する。 さい さい げつ ひく だん りようあし と お ・2歳～2歳3か月：低い段から両足を使って飛び降りること ができる。		
H6	びさいうんどう ねんれい おう 微細運動は年齢に応じています。 さい おやゆび ひとさ ゆび ちい もの ・1歳：親指と人差し指で小さい物をつまむことができる。 なぐり 描き ができる。 さい げつ つ かさ ・1歳3か月：積み木を2つ重ねる。 さい げつ ・1歳6か月：こぼしながらでもスプーンで食えることができる。 さい こいじよう つ まい ・2歳：8個以上の積み木を積み上げることができる。		
H7	こ 子どもがケガをすることはあまりありません。		



Health



	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじよう 現状とサポート
H8	こどもは、 栄養 の バランス や 硬さ ・ 大きさ に 配慮 された 食事 （ 離乳食 を含む）を与えられています。		
H9	こどもが 寝る場所 は、 清潔 で 快適 です。		
H10	こどもは、 ほとんど 毎日お風呂に入れてもらい、 清潔 が保たれています。		
H11	こどものおむつは、 一定の間隔 できちんと 換 えてもらっています。		
H12	こどもは、 必要 な 医療 や 定期健診 を受けさせてもらっています。		
H13	必要 な 予防接種 ができていない場合、その理由について 適切な説明 ができます。		
H14	こどもの 病気 について、 医学的 な 診断 がなされています。		
H15	病気 の時にこどもが 安心 するように 看病 しています。		
H16	こどもの 事故 を防ぐための 対策 をとっています。 ・誤飲、感電、やけど、転倒など。		
H17	こどもは ケガ をしたら、いつも 適切 に 手当て を受けています。		
H18	私たちは 二人共 、こどもをあらゆる 被害 から 守 っています。		

親のサポート力

きょう いく
教 育



子どもの育ちのニーズ

	こ ぞ の そだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い◎ もう少し○ わからない△	げんじよう 現状とサポート
E1	<p>ことばの発達は年齢に応じています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳：いくつかの単語を話す。 ・1歳3か月：名前のあるものの絵を2,3指差すことができる。 ・1歳6か月：体の部位を指差すことができる。 ・2歳：簡単な指示に従うことができる。 <p>「なんで?」「どうして?」などといつも問いかける。</p>		
E2	<p>子どもは、周囲の状況や人、おもちゃなどに好奇心を示します。</p>		
E3	<p>おもちゃや身の回りのもので遊ぶことが好きです。</p>		
E4	<p>認知の発達は年齢に応じています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳：容器に物をいれたり出したりする。 ・1歳6か月：型はめなどの遊びをする。 ・2歳：もぐったり、隠れたり、逃げたりする遊びや簡単な動物の表現遊びなどを楽しむ。 		
E5	<p>2歳までに簡単なことばの指示に応じてることができます。</p>		

Education



	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
E6	こ せいちようだんがい あ 子どもは、成長段階に合ったさまざまなおも ちや遊ぶ物を持っています。		
E7	こ ほか ひと 子どもは、しばしば他の人とふれあったり、 あそ 遊ぶ機会があります。		
E8	いえ なか こ 安全に遊ぶ場所があります。 ・手の届くところに、触ったり口に入ったら危険なものを置い たりしない。 ・出入口や階段にベビーガードを設置している。		
E9	いえ そと あそ 安全 家の中の遊び場所が子どもにとって安全であ ることを確認しています。		
E10	こ いえ ないがい 子どもは家の内外のどこにいてもおとなに よってしっかり見守られています。		
E11	ささいなことでも、こ 子どもができたことをほ めています。		
E12	こ 一緒 絵本 音楽 子どもと一緒に絵本を見たり、音楽を聴いた り、子どもに本を読み聞かせています。		
E13	せいかつ あそ なか 生活や遊びの中で、いつも子どもが楽しく けいけん 経験したり、新しい発見がでたりするよう に配慮しています。		
E14	こ きょうみ たんさくあそ たの 子どもは興味をもって探索遊びを楽しんでい ます。		

親のサポート力

じょう ちよ こう どう はっ たつ
情緒・行動の発達



子どもの育ちのニーズ

	こ ぞ の ちよ だ い ひつ よう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現状とサポート
B1	子どもはいつも穏やかで満足しています。		
B2	ぐずっている時になだめると、すぐに落ち着きます。		
B3	情緒の発達は年齢に応じています。 ・1歳3か月：気分が変わりやすい。 ・1歳6か月：すぐにイライラしたり、時にかんしゃくを起したりする。 ・2歳：反発する、後悔する、興奮する。 ・2歳6か月：恥ずかしいという意識を見せはじめる。		
B4	親しいおとなであれば、すぐに一緒に遊びます。		
B5	人見知りは年齢に応じてあり、それほど激しくありません。		
B6	用心深さは年齢に応じてあります。また、警戒心はそれほど強くありません。		
B7	子どもは感情を表現できています(2歳)。 ・「うれしい」「がっかり」などの感情を表情やことばで表す。		
B8	子どもは、他の人が悲しんでいる時、悲しそうにします。		
B9	子どもは、自分でスプーンなどを使って食べたり、服を脱ぎ着したりし始めています。		
B10	食事や就寝時に、たいてい落ち着いています。		

Emotional and Behavioural Development



	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要な大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
B11	わたし ふたり ころ ひとよう 私たち二人は、子どもをなだめる必要がある ときに、すぐにあうじています。		
B12	わたし ふたり ころ とき おだ 私たち二人は、子どもがむずかる時に、穏や かで一貫した態度で接しています。		
B13	こ てきせつ よろこ 子どもと適切なスキンシップをとると、喜び を感じています。		
B14	ひなん てきい こ む 非難や敵意が子どもに向けられることはありません。		
B15	しか とき こ たた 叱られる時に、子どもが叩かれるようなこと はありません。		
B16	わたし ふたり こそだ ごま とき たす 私たち二人は、子育てで困った時に助けやア ドバイスを求めたことがあります。		

親のサ
ポートカ

自分についての自覚



子どもの育ちのニーズ

	子どもの育ちに必要で大切なこと	は ◎ もう少し ○ わからない △	げんじょう 現状とサポート
ID1	子どもは自分に自信を持っています。		
ID2	自分についての気づきは、年齢に応じています。 ・1歳：鏡の中の自分に気がつく。 ・2歳：写真の中の自分に気がつく。		
ID3	自分の名前を知っています。 ・1歳：自分の名前を呼ばれると振り返る。 ・2歳3～6か月：自分のフルネームを言える。		
ID4	自分の性別を知っています。(2歳6か月以上)		
ID5	できたことを得意がります。		
ID6	自分の物と他人の物を区別できます。 (2歳6か月以上)		
ID7	子どもは、きょうだいや仲間に対して自己主張します(2歳以降)		

Identity



	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そだ ひつよう たいせつ	は い 〇 も う 少 し 〇 わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
ID8	こ ども に よ 汚 れ た い ふ く を き せ て い ま せ ん 。 清 潔 に し て い ま す 。		
ID9	こ ども は 自 分 ら し い 服 装 を し て い ま す 。 ・ 年 齢 、 性 別 、 文 化 、 宗 教 、 そ し て 必 要 な 場 合 、 障 害 に 適 切 な も の 。		
ID10	家 族 の み ん な は 、 こ ども を 名 前 で 呼 び ま す 。		
ID11	「 あ な た は あ な た の ま ま で 良 い 」 と こ ども 自 身 の こ と を 尊 重 す る よ う に し て い ま す 。		
ID12	こ ども の こ と を ほ こ り に お も っ て い ま す 。		
ID13	自 分 で で き る こ と は 自 分 で す る よ う に 働 き か け て い ま す 。		
ID14	ひ と め い わ く に な る よ う な 行 動 を し な い よ う 、 ま た も の 大 切 に す る よ う に 教 え て い ま す 。		
ID15	こ ども を 家 族 の 一 員 と し て 大 切 に し て い ま す 。		

親のサ
ポ
ー
ト
カ

かぞく しゃかい かんけい
家族・社会との関係



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現状とサポート
F1	1歳までに主たる養育者に愛着行動を示します。 ・親の姿が見えないと後追いをします。		
F2	私が戻ってくると喜びます（不機嫌に見えたり、怖がったりするなどの様子は見られません）。		
F3	親戚や家族の友人など、親しい人という時は、穏やかで落ち着いています。		
F4	私の世話やかかわりを喜びます。		
F5	社会性をはぐくむ遊びは年齢に応じています。 ・1歳6か月：満足そうに1人で遊ぶが、おとなの家族やきょうだいの近くにいることを好む。 ・2歳：きょうだい/他の子どもの近くで遊ぶが、彼らと一緒に遊ばない。 他の子どもが遊んでいるのを見て、時々加わる。		
F6	食事時間のやりとりを楽しみます。		
F7	自分の嫌なことでなければ、簡単なお手伝いをします。		



Family and Social Relationships

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と こ そだ ひつよう たいせつ	は い 〇 も う 少 し 〇 わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
F8	こ ども を 無 条 件 (何 の 見 返 り も 求 め ず) に 愛 して います。		
F9	こ ども が 辛 い 状 況 に あ る と き、 慌 て ず 落 ち 着 い て 一 貫 し た 対 応 を と る こ と が で き ます。		
F10	こ ども が 快 適 に 過 ぎ せ る よ う に、 気 を 配 り、 速 や か に 対 応 し て います。		
F11	し っ か り と し た 愛 着 関 係 を 築 く た め に、 子 ども と 多 く の 時 間 を 過 ぎ て います。		
F12	こ ども が 暴 言 や 暴 力 を 見 聞 き す る な ど の 恐 い 思 い を し な い よ う に 守 っ て います。		
IF13	こ ども と き よ う だ い の や り と り を 見 守 り、 必 要 に 応 じ て 調 整 し て います。		
F14	こ ども に 暴 力 的 な 行 為 を し な い よ う 教 え て います。		
IF15	こ ども を 外 出 や 友 達 の 家 な ど へ 遊 び に 連 れ て 行 っ て います。 子 ども が 障 害 を も っ て い て も 同 じ よ う に し て います。		
F16	こ ども に と っ て 安 全 な 何 人 か の お と な が 子 ども の 世 話 を し て います。		
F17	こ ども は、 親 の 生 活 リ ズ ム の 影 響 を 受 け る こ と な く、 安 定 し た 生 活 リ ズ ム が で き て います。		

親のサポート力

かぞく かんきょう
家族と環境



かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報		はい いい わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE1	家族史		
FE2			
FE3	家族機能		
FE4			
FE5			
FE6			
FE7			
FE8			
FE9			
FE10			



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ い いえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE11	家族機能	子どもと生活している家族の人の中で、飲酒や薬物問題のある人がいます。		
FE12		子どもと生活している家族で、暴力を受けた経験があるおとながいます。		
FE13		家庭内で口論や喧嘩など、もめることが多いです。		
FE14	親族	親族が直接的な援助をしてくれています。		
FE15		親族が精神的な支えになってくれています。		
FE16		親族が経済的な援助をしてくれています。		
FE17		親族が情報提供やアドバイスをしてくれています。		
FE18		私たち家族の中に子どもの養育を助けてくれるおとながいます。		
FE19	住居	私たち家族には、住む家がありません。		
FE20		私たち家族は、居候や車中生活するなど、居所が定まりません。		
FE21		住居や周辺の環境は、子どもが暮らす上で安全です。		

かぞく かんきょう 家族と環境



		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ い い え○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE22	住居	いえ せいかつひつじゆひん せつび とどの 家には生活必需品や設備が整っています。		
FE23		こどもが暮らすためには、いえ しゅうり かいぞう が必要です。		
FE24		こどもが暮らすためには、いえ せま 家が狭すぎます。		
FE25	就労	わたし わたし は、じぶん はたら せいけい た 私（私たち）は、自分で働いて生計を立て ています。		
FE26		わたし わたし はたら かた こども よういく 私（私たち）の働き方は、子どもの養育に 影響があります。 ・働き方とは、残業、夜勤、単身赴任、休日出勤など。		
FE27		わたし わたし せいきしょくいん はたら 私（私たち）は正規職員として働いています。		
FE28		きゅうしよくちゆう かぞく なん しゅうろうしえん う 求職中の家族は、何らかの就労支援を受け ています。		
FE29	収入	がいどう ふくしてあて しんせい 該当する福祉手当はすべて申請しています。		
FE30		でんき すいどう しはらい とどこお 電気、ガス、水道などの支払で滞っているも のはありません。		
FE31		かぞく しゅうにゆう はんいない せいかつ 家族は収入の範囲内で生活ができています。		
FE32		しゅっきん ぷ 借金が増えています。		



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ い いえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE33	収入	わたし かぞく こんご せいかつひ ふあん かん 私たち家族は、今後の生活費に不安を感じ ています。 ・今後の生活費とは、医療費、出産費用、教育費など。		
FE34		わたし かぞく ちいき う い 私たち家族は、地域で受け入れられていると 感じていません。		
FE35	社会との かかわり	わたし かぞく ちいき さべつ いや う 私たち家族は、地域で差別や嫌がらせを受 けていません。		
FE36		わたし かぞく ちいき なか ゆうじん 私たち家族には地域の中に友人がいます。		
FE37		わたし かぞく ちょうないかい こ かい 私たち家族は、町内会や子ども会、PTAな どの地域の組織や活動に参加しています。		
FE38	地域の 人材や 社会資源	ちいき しげん く 地域にいろいろな資源があり、暮らしやすい です。 ・地域資源とは、お店、公園、児童館、クリニック、託児所、 たよ きんじよ ひと こそだ ひろば こうつう 頼れる近所の人、ファミリーサポート、子育て広場、交通 機関など。		
FE39		わたし かぞく じっさい ちいきしげん つか 私たち家族は、実際に地域資源を使ってい ます。		

けんこう
健康



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そ だ ひ つ よ う た い せ つ	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げ ん じ ょ う 現 状 と サ ポ ー ト
H1	こ ども は 健 康 で す。 か こ げ つ か ん し ゅ う か ん い な い た い ち ょ う ぶ り ょ う て い ど げ ん じ ょ う ・ 過 去 6 か 月 間 に 1 週 間 以 内 の 体 調 不 良 程 度 で あ れ ば 健 康 と か ん が 考 え て よ い。		
H2	し ん ち ょ う た い じ ゅ う と う い ね ん れ い お う 身 長 ・ 体 重 ・ 頭 囲 は 年 齢 に 応 じ て い ま す。		
H3	ち ょ う り ゃ く し り ゃ く も ん だ い 聴 力 や 視 力 に は 問 題 が な さ そ う で す。		
H4	ひ つ よ う よ ほ う せ つ し ゅ う う 必 要 な 予 防 接 種 を 受 け て い ま す。		
H5	お ね じ ょ や お も ら し は、そ れ ほ ど 多 く は あ り ま せ ん。		
H6	そ だ い ん だ う ね ん れ い お う 粗 大 運 動 は 年 齢 に 応 じ て い ま す。 ・ 3 歳 10 か 月： けん けん が 数 歩 で き る。 ・ 4 歳 6 か 月： ス キ ッ プ が で き る。 ・ 3 歳 2 か 月： で ん ぐ り 返 し が で き る。 ・ 5 歳 ～ 6 歳： プ ラ ン コ の 立 ち 乗 り が で き る。		
H7	ひ さ い ん だ う ね ん れ い お う 微 細 運 動 は 年 齢 に 応 じ て い ま す。 ・ 3 歳 6 ～ 11 か 月： 顔 ら し い 絵 (目 と 口 が あ る) が 描 け る。 ・ 3 歳 ～ 3 歳 5 か 月： 箸 で 大 き な も の を 挟 み、 あ ま り こ ぼ さ ず 食 べ る。 ・ 3 歳 6 ～ 11 か 月： 小 さ な 前 ボ タ ン を は め る こ と が で き る。 ・ 4 歳 ～ 4 歳 11 か 月： ま ね て 四 角 形 を 描 く こ と が で き る。		
H8	こ ども が ケ ガ を す る こ と は、 あ ま り あ り ま せ ん。		

Health



	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
H9	こどもは、栄養バランスや硬さ・大きさに配慮された食事を与えられています。		
H10	子どもの寝る場所は、清潔で快適です。		
H11	子どもはほとんど毎日お風呂に入れてもらい、清潔が保たれています。		
H12	子どもは必要な医療や定期健診を受けさせてもらっています。		
H13	必要な予防接種ができていない場合、その理由について適切に説明ができます。		
H14	子どもの病気について、医学的な診断がなされています。		
H15	私たち二人は、病気のときに子どもが安心して看病をしています。		
H16	子どもの事故を防ぐための対策をとっています。 ・誤飲、感電、やけど、転倒など。		
H17	子どもはケガをしたらいつも適切に手当を受けています。		
H18	私たちは二人共、子どもをあらゆる被害から守っています。		
H19	子どもは年齢に応じた規則正しい生活リズムで過ごしています。 ・食事、就寝、入浴など		

親のサポート力

Education



	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
H7	こどもは、成長段階に合ったさまざまなおもちゃや遊ぶものを持っています。		
H8	子どもには、たびたび他の人と遊んだり、ふれあう機会があります。		
H9	日常的に子どもに本を読み聞かせたり、一緒に数字遊びをしたり、テレビを見たりしています。 ・数字遊びとは、数を数えながら階段を上がり下りする、数を数えながらおもちゃを片付けるなど、数の概念を持てるように意識的にことばかけをすること。		
H10	家の中に子どもが安全に遊べる場所があります。 ・扇風機は安全ネットをつけるなどしている。 ・ヒーターなど、子どもが熱い物に触れないようにおとなが見ている。 ・手の届くところに触ったり口に入れたら危険なものを置いたりしない。 ・ベランダや窓、階段などから転落しないように対策をとっている。		
H11	ささいなことでも、子どもができたことをほめています。		
H12	生活や遊びの中で、いつも子どもが楽しく経験したり、新しい発見ができたりするように配慮しています。		
H13	子どもは家の内外のどこにいてもおとなによってしっかりと見守られています。		
H14	子どもが保育園等に通っている場合、決まった時間帯に送迎をしています。		
H15	子どもの保育園等への送迎は、子どもにとって安心できる親しいおとながしています。		
H16	子どもの年齢や興味に合わせたおもちゃや本を与えています。		

親のサポート力

じょう ちょう こう どう はっ たつ
情緒・行動の発達



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そだ ひつよう たいせつ	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
B1	こ ども は い つ も 穏 や か で 満 足 し て い ま す。 おだ まんぞく		
B2	ぐ ず っ て い る 時 に な だ め る と、 す ぐ に 泣 き や み ま す。 とき な		
B3	あ い て 相 手 の 気 持 ち が わ か る よ う に な り ま す。 きも		
B4	し た 親 し い お と な と す ぐ に 一 緒 に 遊 ぶ こ と が で き ま す。 いっしょ あそ		
B5	ひつよういじょう 必 要 以 上 に 警 戒 し ま せ ん。 けいかい		
B6	あ い て 相 手 を 挑 発 す る よ う な 言 動 や 乱 暴 な 行 動 は し ま せ ん。 ちようはつ げんどう らんぼう こうどう		
B7	じぶん きず 自 分 を 傷 つ け る よ う な こ と は し ま せ ん。 ・ ひ っ か く、 頭 部 を 強 く 打 ち つ け る な ど。 どうぶ つよ う		
B8	じぶん ぶく き 自 分 で 服 を 着 よ う と し ま す。 き		
B9	じぶん はん た 自 分 で ご 飯 を 食 べ ま す。 はん た		

Emotional and Behavioural Development



親のサポート力

	こ 子どもの育ちに必要で大切なこと そだ ひつよう たいせつ	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
B10	子どもの情緒的なニーズにすぐに応えます。		
B11	私たち二人は、子どもがむずかる時に、穏やかで一貫した態度で接しています。		
B12	子どもと適切なスキンシップをとると、喜びを感じています。		
B13	非難や敵意が、子どもに向けられることはありません。		
B14	子どもは叩いて叱られたり、体罰を受けるようなことはありません。		
B15	子どもには一貫した態度で応じます。 親/養育者は、概ね一貫した子どもが予想できる対応しています(親/養育者の気分や行動に左右されません)。		
B16	私たち二人は、子育てで困ったときに助けやアドバイスを求めたことがあります。		

自分についての自覚



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そ だ ひ つ よ う た い せ つ	は い ち ゃう ち ゃう ち ゃう ち ゃう も う 少 し わ か ら な い	げんじょう 現状とサポート
ID1	じぶん じしん も 自分に自信を持っています。		
ID2	じぶん せいべつ し 自分の性別を知っています。		
ID3	じぶん なまえ し 自分の名前を知っています。		
ID4	きょうだい なかま たい じこしゅちやう きょうだいや仲間に対して自己主張をします。		
ID5	じぶん しゅうい かんしん きやうみ しめ 自分の周囲へ関心や興味を示します。		
ID6	しゃかい なか ば ことばづか 社会の中で、その場にふさわしい言葉遣いや こうどう 行動をします。		

Identity



	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そだ ひつよう たいせつ	は い 〇 も う 少 し 〇 わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
ID7	こ ども に 汚 れ た 衣 服 を 着 せ て い ま せ ん 。 清 潔 に し て い ま す。		
ID8	こ ども は 自 分 ら し い 服 装 を し て い ま す 。 ・ 年 齢 、 性 別 、 文 化 、 宗 教 、 そ し て 必 要 な 場 合 、 障 害 に も 適 切 な も の 。		
ID9	家 族 の み ん な は 、 こ ども を 名 前 で 呼 び ま す 。		
ID10	「 あ な た は あ な た の ま ま で 良 い 」 と こ ども 自 身 の こ と を 尊 重 す る よ う に し て い ま す 。		
ID11	こ ども に は 、 簡 単 な 選 択 が で き る 機 会 が あ り ま す 。		
ID12	自 分 で で き る こ と は 自 分 で す る よ う に 促 し て い ま す 。		
ID13	ひ と の も の を 大 切 に す る よ う 教 え て い ま す 。		
ID14	こ ども を 家 族 の 一 員 と し て 大 切 に し て い ま す 。		

親のサポ
ート力

かぞく しゃかい かんけい
家族・社会との関係



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そだ ひつよう たいせつ	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
F1	しゅ たる 養 育 者 に 愛 着 行 動 を 示 し た り、 いっしょ に い る と 安 心 し た り し ま す。		
F2	わ た し の 世 話 や か か わ り を 喜 び ま す。		
F3	ど う ね ん 齢 の こ ども と いっしょ に 遊 ん で 楽 し み ま す。		
F4	ち い さ い こ ども に や さ く し た り、 い も の を か わ い が っ た り し ま す。		
F5	こ ども は、 友 だ ち や き ょ う だ い と も の つ か いっしょ に 遊 ん だ り、 順 番 に も の を つ か 一 っ しょ に 遊 ん だ り、 順 番 に も の を つ か 一 っ しょ に 遊 ん だ り、 順 番 に も の を つ か		
F6	し ょ く じ かん の や り と り を 楽 し み ま す。		



Family and Social Relationships

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そだ ひつよう たいせつ	は い 〇 も う 少 し 〇 わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
F7	こ ども を 無 条 件 (何 の 見 返 り も 求 め ず) に 愛 し て い ま す。		
F8	こ ども が 快 適 に 過 ぎ せ る よう に、 気 を 配 り、 速 や か に 対 応 し て い ま す。		
F9	し っ か り と し た 愛 着 関 係 を 築 く た め に、 子 ども と 多 く の 時 間 を 過 ぎ て い ま す。		
F10	こ ども が 暴 言 や 暴 力 を 見 聞 き す る な どの 恐 い 思 い を し な い よう に 守 っ て い ま す。		
F11	こ ども と き ょう だ い 間 の 交 流 を 見 守 り、 必 要 に 応 じ て 調 整 し て い ま す。		
F12	こ ども 自 身 が 暴 力 的 な 行 為 を 思 い と ど ま る こ と が で き る よう に さ ま ざ ま な 工 夫 を し て い ま す。		
F13	こ ども を 外 出 や 友 だ ち の 家 な ど へ 遊 び に 連 れ て 行 っ て い ま す。 子 ども が 障 害 を も っ て い て も 同 じ よう に し て い ま す。		
F14	こ ども に と っ て 安 全 な 何 人 か の お と な が 子 ども の 世 話 を し て い ま す。		
F15	こ ども は、 親 の 生 活 リ ズ ム の 影 響 を 受 け る こ と な く、 安 定 し た 生 活 リ ズ ム が で き て い ま す。		

親のサポート力

かぞく かんきょう
家族と環境



		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	はい いい わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE1	家族史	わたし ふたり が 子ども だった ころ、 辛い 経験 を した こと が あり ます。 ・ 両親 の 言い 争い、 暴力、 親 と 一緒 に 暮ら せな かつ た 経験 など。		
FE2		わたし かぞく は、 心 の 大き な 痛手 と なる よう な 喪失 や 未だ に 決着 の つか ない 葛藤 を 抱え て います。 ・ 死別、 両親 の 離婚 など。		
FE3		こ ども の 障害 や 子 ども の 行動 は、 きょう だい に 影響 を 与 え て いる と 思 います。		
FE4		こ ども の 障害 や 子 ども の 行動 は、 わた し たち の 子育て を し て い く 上 で 影響 を 与 え て いる と 思 います。		
FE5	家族機能	こ ども と 生活 し て いる 家 族 の 人 の 中 で、 精神 的 な 不調 の 見 ら れ る 人 が います。		
FE6		こ ども と 生活 し て いる 家 族 の 人 の 中 で、 身体 的 に 健康 状 態 が あ ま り よ く ない 人 が います。		
FE7		こ ども と 生活 し て いる 家 族 の 人 の 中 で、 問題 と なる 行動 の 見 ら れ る 人 が います。		
FE8		こ ども と 生活 し て いる 家 族 の 人 の 中 で、 身体 的 な 障害 の ある 人 が います。		
FE9		こ ども と 生活 し て いる 家 族 の 人 の 中 で、 知的 な 障害 の ある 人 が います。		
FE10		こ ども と 生活 し て いる 家 族 の 人 の 中 で、 精神 的 な 障害 の ある 人 が います。		



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ いいえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE11	家族機能	子どもと生活している家族の人の中で、飲酒や薬物問題のある人がいます。		
FE12		子どもと生活している家族で、暴力を受けた経験があるおとながいます。		
FE13		家庭内で口論や喧嘩など、もめることが多いです。		
FE14	親族	親族が直接的な援助をしてくれています。		
FE15		親族が精神的な支えになってくれています。		
FE16		親族が経済的な援助をしてくれています。		
FE17		親族が情報提供やアドバイスをしてくれています。		
FE18		私たち家族の中に子どもの養育を助けてくれるおとながいます。		
FE19	住居	私たち家族には、住む家がありません。		
FE20		私たち家族は、居候や車中生活するなど、居所が定まりません。		
FE21		住居や周辺の環境は、子どもが暮らす上で安全です。		

かぞく かんきょう
家族と環境



		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ い い え○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE22	住居	いえ せいかつひつじゆひん せつび とどの 家には生活必需品や設備が整っています。		
FE23		こどもが暮らすためには、いえ しゅうり かいぞう が必要です。		
FE24		こどもが暮らすためには、いえ せま が狭すぎます。		
FE25	就労	わたし わたし は、じぶん はたら せいけい た 私（私たち）は、自分で働いて生計を立て ています。		
FE26		わたし わたし はたら かた こども よういく 私（私たち）の働き方は、子どもの養育に 影響があります。 ・働き方とは、残業、夜勤、単身赴任、休日出勤など。		
FE27		わたし わたし せいきしょくいん はたら 私（私たち）は正規職員として働いています。		
FE28		きゅうしよくちゆう かぞく なん しゅうろうしえん う 求職中の家族は、何らかの就労支援を受け ています。		
FE29	収入	がいどう ふくしてあて しんせい 該当する福祉手当はすべて申請しています。		
FE30		でんき すいどう しはらい とどこお 電気、ガス、水道などの支払で滞っているも のはありません。		
FE31		かぞく しゅうにゆう はんい せいかつ 家族は収入の範囲内で生活ができています。		
FE32		しゅうきん ぷ 借金が増えています。		



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ い いえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE33	収入	わたし かぞく こんご せいかつひ ふあん かん 私たち家族は、今後の生活費に不安を感じ ています。 ・今後の生活費とは、医療費、出産費用、教育費など。		
FE34		わたし かぞく ちいき う い 私たち家族は、地域で受け入れられていると 感じていません。		
FE35	社会との かかわり	わたし かぞく ちいき さべつ いや う 私たち家族は、地域で差別や嫌がらせを受 けていません。		
FE36		わたし かぞく ちいき なか ゆうじん 私たち家族には地域の中に友人がいます。		
FE37		わたし かぞく ちょうないかい こ かい 私たち家族は、町内会や子ども会、PTAな どの地域の組織や活動に参加しています。		
FE38	地域の 人材や 社会資源	ちいき しげん く 地域にいろいろな資源があり、暮らしやすい です。 ・地域資源とは、お店、公園、児童館、クリニック、託児所、 たよ きんじよ ひと ファミリーサポート、子育て広場、交通 機関など。		
FE39		わたし かぞく じっさい ちいきしげん つか 私たち家族は、実際に地域資源を使ってい ます。		

けんこう 健康



子どもの育ちのニーズ

	こ ぞ だ ひつ ぶ よう た い せ つ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い じ ゃ う もう少し○ わからない△	げん じ ゃ う 現状とサポート
H1	こ けんこう 子どもは健康です。 か こ げつ かん し ゃ う かん い ない た い ち ゃ う り ゃ う て い ど ・過去6か月間に1週間以内の体調不良程度であれば けんこう かんが じょう 健康と考えて良い。		
H2	しん ち ゃ う た い じ ゃ う と う い ね ん れ い お う 身長・体重・頭囲は年齢に応じています。		
H3	ち ょ う り ゃ く し り ゃ く も ん だ い 聴力や視力には問題がなさそうです。		
H4	こ ね じ かん お じ かん 子どもの寝る時間と起きる時間は、 決まっています。		
H5	え い ゃ う し ゃ く じ し ゃ ゃ く じ ゃ ん 栄養バランスがとれた食事をしっかり食べます。		
H6	が っ こ う か つ ど う い が い な ん う ん ど う 学校の活動以外に何らかの運動をしています。 ・サッカー、やきゅう 野球、スイミング、ミニバスケットボール、 けんどう じ ゃ う ど う 剣道、柔道など。		
H7	ひつ ぶ よう よ ぼう せつ し ゃ う 必要な予防接種は受けています。		
H8	おねしょやおもらしはしません。		
H9	子どもはよくケガをしません。		

Health



	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と <small>こ そだ ひつよう たいせつ</small>	は っ い 〇 <small>は っ い 〇 もう少し〇 わからない△</small>	げんじょう 現状とサポート
H10	えいよう <small>えいよう</small> 栄養のバランスがとれた食事を準備しています。 <small>しよくじ じゆんび</small>		
H11	こ ども の 事 故 を 防 ぐ た め の 対 策 を と っ て い ま す 。 <small>こ じこ ふせ たいさく</small> ・やけど、転倒、交通事故など。 <small>てんどう こうつうじこ</small>		
H12	いえ せいけつ かいてき <small>いえ せいけつ かいてき</small> 家は清潔で快適です。		
H13	こ ども に 必 要 な 医 療 を 受 け さ せ て い ま す 。 <small>こ ども ひつよう いりよう う</small>		
H14	こ ども が ケ ガ を し た ら 、 い つ も 適 切 に <small>こ ども が ケ ガ を し た ら 、 い つ も 適 切 に</small> 手当てをしています。 <small>てあ</small>		
H15	びょうき とき こ ども が あんしん す る よう に 看 病 <small>びょうき とき こ ども が あんしん す る よう に 看 病</small> (手当て)をしています。 <small>てあ</small>		
H16	わたし ふたりとも こ ども を あらゆる 被 害 から <small>わたし ふたりとも こ ども を あらゆる 被 害 から</small> 守っています。 <small>まも</small>		
H17	こ ども が 、 年 齢 相 応 の 規 則 正 しい 生 活 リ ズ ム で <small>こ ども が 、 年 齢 相 応 の 規 則 正 しい 生 活 リ ズ ム で</small> 過ごせるように気をつけています。 <small>き</small> ・食事、就寝、入浴など。 <small>しよくじ じゅうしん にゅうよく</small>		

親のサポート力

きょう いく
教 育



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と <small>こ そだ ひつよう たいせつ</small>	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
E1	がっこう たの かの 学校に楽しく通っています。		
E2	き じかん とうこう 決まった時間に登校します。 ちやく 遅刻をしません。		
E3	がっこう とも 学校に友だちがいます。		
E4	せんせい かんけい 先生とよい関係です。		
E5	せんせい い き 先生の言うことをちゃんと聞いています。		
E6	がっこう あは ひと いや 学校で暴れたり、人の嫌がることを したりしません。		
E7	ある程度集中して学習に取り組むことが できます。		
E8	とくべつしえんまうじく 特別支援教育を受けています。		
E9	がっこう い いかたくな い いかない 学校に行きたくないことや行けないことが ありません。		

Education



	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そ だ ひ つ よ う た い せ つ	は い 〇 も う 少 し 〇 わ か ら な い △	げ ん じ ょ う 現 状 と サ ポ ー ト
E10	参観日や運動会などの学校行事や PTA活動に毎回参加しています。		
E11	学校の授業についていけない場合、担任 に相談する、特別支援教育を活用するなど 何らかの手当てを講じています。		
E12	必要な場合、特別支援教育を受けることが できるようにしています。		
E13	必要な場合、子どもも知っている信頼できる おとなが学校まで送迎しています。		
E14	子どもの学習に関心があります。		
E15	子どもの学習やスポーツなど子どもが取り組 む活動に関して過度のプレッシャーをかけて いません。 ・100点を採ることや1番になることにこだわりません。		
E16	子どもと一緒に本を読んだり、一緒にゲーム(トラン プやクイズなど)をしたりする時間を持っています。		
E17	子どもが休まず登校できるよう さまざまな工夫をしています。		
E18	子どもの遊び道具や読んでいる本、学習の 内容に気を配っています。		

親のサポート力

じょう ちょう こう どう はっ たつ
情緒・行動の発達



子どもの育ちのニーズ

	こ ぞ の ち ゃ り に ひ つ よ う で た い せ つ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い ◎ もう少し ○ わからない △	げん じ ょ う 現状とサポート
B1	わたし こと しあわ 私たちの子どもは幸せです。		
B2	どうねんれい とも いっしょ たの 同年齢の友だちをつくり、一緒に楽しく すごしています。		
B3	うれしかったこと いや だったこと しんぱい ことなどを身近なおとなに話したり相談したり することができます。		
B4	ひと もの 人と物をわけあったり、一つの物を交代で 使ったりします。		
B5	こ じぶん もの たにん もの ちが 子どもは、自分の物と他人の物の違いを わかっています。		
B6	ひと ちやうはつ 人を挑発するような言動や乱暴な行動は しません。		
B7	じぶん きず わざと自分を傷つけるような言動や らんぼう ころどう 乱暴な行動はしません。		
B8	ものこと ぼうりよく かいけつ 物事を暴力で解決しようとする、 ぼうりよくてき えいが まんが 暴力的な映画や漫画が好きといった様子が うかがわれません。		
B9	ほか こ 他の子どもをいじめたりしていません。		
B10	だま いえ で い 黙って家を出て行くようなことは ありません。		
B11	なが じかん ひどく 長い時間一人きりで過ごすことは ありません。		



Emotional and Behavioural Development

	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
B12	こ ぶじょうけん あい 子どもを無条件に愛しています。 (何の見返りも求めずに)		
B13	こ いばしょ はあく 子どもの居場所をいつも把握しています。		
B14	こ こわ いた とき 子どもが怖がったり痛がったりしている時、 あんしん こえ 安心できるように声をかけたりしています。		
B15	こ てきせつ 子どもが適切にふるまえるように、 さまざまなり方 工夫 を工夫しています。 ほめる、励ます、モデルを示す、褒美をあげる、言い聞かせるなど。		
B16	こ ふしんしゃ こわ め 子どもが不審者や怖い目にあわないように さまざま 工夫 をしています。		
B17	いっかん たいど こ いつも一貫した態度で子どもに接しています。		
B18	わたし ふたり きょうりよく いえ き 私たち二人は協力して、家の決まりを まも 守らせるようにしています。		
B19	こ ひとり 子どもを一人きりにすることは、 ほとんどありません。		
B20	こ ひなん てきい む 子どもに、非難や敵意を向けません。		
B21	こ たた しか たいばつ 子どもを叩いて叱ったり、体罰をしたり しません。		

親の
サポ
ート
力

自分についての自覚



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げ ん じ ょ う 現 状 と サ ポ ー ト 現状とサポート
ID1	じぶん じしん も 自分に自信を持っています。		
ID2	じぶん しみ み やそお た ふ ま 自分らしい身なり(装いや立ち振る舞いなど)に まんぞく 満足しています。		
ID3	じぶん な と 自分があきらめずに成し遂げたことに まんぞく 満足しています。		
ID4	ねんれいそうおう じこしゅちょう 年齢相応に自己主張できます。		
ID5	じぶん しゅうい かんしん きょうみ しめ 自分の周囲へ関心や興味を示します。		
ID6	しめい せいねんがっぴ じゅうしょ い 氏名、生年月日、住所を言うことができます。		
ID7	じぶん だれ たいせつ しんせき 自分にとって誰が大切な親戚かがわかります。		
ID8	じぶん かぞく ぶんか いわかん も 自分の家族の文化に違和感を持っていません。		

Identity



	こ 子どもの育ちに必要なで大切なこと そだ ひつよう たいせつ	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
ID9	よご 汚れた衣服を着せていません。 いふく き せいけつ 清潔にしています。		
ID10	わたし 私たちはその子にしかない強さを見つけ、 つよ さ み それを発揮させようとしています。 はつき		
ID11	じぶん 自分らしい服装をしています。 ふくそう わんれい 年齢や性別、文化、宗教、そして必要な場合は、障害にも せいはつ さいせう しやうきやう ひつよう ぼあい しょうがい はいりよ 配慮したものです。		
ID12	いじめや差別を受けた時には、親が解決できる さべつ う と き おや かいけつ よう見守り、さまざまな工夫をしています。 みまも くふう		
ID13	こ 子どものことを誇りに思っています。 ほこ おも		
ID14	ちいき 地域や家族の文化や言語(方言など)を学ぶ かぞく ぶんか げんご ほうげん まな 機会があります。 きかい		
ID15	たにん 他人や他の家族の文化を尊重し、受け入れる ほか かぞく ぶんか そんちやう う い ように教えています。 おし		
ID16	かぞく 家族の一員として大切にしています。 いちいん たいせつ		

親のサポート力

かぞく しゃかい かんけい
家族・社会との関係



子どもの育ちのニーズ

	こ ぞ だ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い◎ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
F1	おや じつおや つよ あいちやく しめ 親(実親)に強い愛着を示しています。		
F2	おや いっしょ あんしん 親と一緒にいると安心します。		
F3	きょうだいや とも たの あそ きょうだいや友達と楽しく遊びます。		
F4	ちい こ やさ い もの 小さい子どもにも優しくしたり、生き物を かわいがったりします。		
F5	こ した とも 子どもには、親しい友だちがいます。		
F6	こ ねんれい せい ちしき 子どもの年齢にふさわしい性の知識があり、 てきせつ こうどう 適切な行動がとれます。		
F7	おとうと いもうと めんどう 弟や妹の面倒をみます。		
F8	こ おや よういくしゃ めんどう 子どもは、親(養育者)の面倒までは みていません。		



Family and Social Relationships

	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
F9	ちようきてき あんてい 長期的に安定してかかわっているおとな (おや ふく すく ひとり 親も含む) が少なくとも一人はいます。		
F10	けいぞく こ せわ ひと 継続して子どもの世話をしている人がいます。		
F11	こ じ かき 子どもが知っている限られたおとなが身の まわ せわ しょくじ にゅうよく 回りの世話(食事、入浴)をしています。		
F12	わたし ふたり かぞくいがい ひと も かんけい 私たち二人が家族以外の人と持つ関係の もちかた こ よ みほん 持ち方は、子どもにとって良い見本になります。		
F13	きょうだい は、そのこどもにやさしくしています。		
F14	こどもは、おとなのせいどうどう み まご 子どもは、おとなの性行動を見たり、巻き込ま れたりすることから守られています。		
F15	こどもが、ほうかご しゅうまつ とも あそ 子どもが、放課後や週末に友だちと遊んでいる ことを知っています。		
F16	こ じしん ぼうりよくてき こうい おち 子ども自身が暴力的な行為を思いとどまることが できるようにさまざまなくふう おし できるようにさまざまな工夫を教えています。		

親の
サポ
ート
力

社会での自分の現し方



子どもの育ちのニーズ

	子どもの育ちに必要で大切なこと	は ① もう少し ② わからない ③	げんじょう 現状とサポート
P1	外見や行動は挑発的ではありません。		
P2	おとなの自分への関心を大切にしています。		
P3	嬉しそうに家族や家庭のことを話します。		
P4	見知らぬおとなに対して馴れ馴れしくしていません。		
P5	自信を持って仲間と接します。		
P6	親しい人とそうでない人とは態度や話し方を区別して関わることができます。 見知らぬ人とは、関わりません。		



Social Presentation



	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と わたし ふたりは、こどもをいつも清潔にしています。	は じょう じょう じょう じょう は もう 少 し 〇 わ かり ない △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
P7	わたし ふたりは、こどもをいつも清潔にしています。		
P8	わたし ふたりは、清潔にするための方法を おし 教えています。		
P9	わたし ふたりは、こどもが自分に自信を持つ ことのできるように働きかけています。		
P10	わたし ふたりは、こどもが社会の一員として ふさわしい行動をした時にほめています。		
P11	こどもに子ども会やボランティア活動、ボーイスカ ウトなどの地域活動への参加を勧めています。		
P12	わたし ふたりと近所の人や関係機関の人との かんけい おおむ りようこう 関係は、概ね良好です。		
P13	かぞく ちいきしゃかい う い 家族は、地域社会に受け入れられていると かん 感じています。		
P14	かぞく なか はんざいこうい はんしゃかいてきかつどう 家族の中で犯罪行為や反社会的活動に かか 関わっている人はいません。		

親のサポート力

自分で生きる知恵と技術



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と <small>こ そだ ひつよう たいせつ</small>	は っ い ち も う 少 し わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
S1	こ ども は 年 齢 相 応 な 自 分 で 生 活 し 得 る 知 恵 と 技 術 (衛 生 面 の 管 理) を 持 っ て お り、自 分 で 可 能 な こ と を 行 っ て 可 能 な こ と を 行 っ て 可 能 な こ と を 行 っ て 可 能 な ・入浴、歯磨き、髪にブラシをかけるなど。		
S2	き け ん を 回 避 す る こ と が 可 能 な こ と を 行 っ て 可 能 な		
S3	自 分 に 必 要 な 飲 み 物 や 食 べ 物 が わ か り、 自 分 で 摂 る こ と が 可 能 な こ と を 行 っ て 可 能 な		
S4	でんわ に 出 る こ と が 可 能 な こ と を 行 っ て 可 能 な、 年 齢 の 高 い こ ども は 年 齢 の 高 い こ ども は でんわ を か け る こ と も 可 能 な こ と を 行 っ て 可 能 な		
S5	年 齢 の 高 い こ ども は、お と な が い れ ば 簡 単 な 料 理 を つ く る こ と が 可 能 な こ と を 行 っ て 可 能 な		
S6	お と な の ア ド バ イ ス を も ら い な が ら、家 事 の や り 方 を 身 に つ け て い ま す。		
S7	お と な び た 行 動 を し ま せ ん。		
S8	年 齢 不 相 応 な 性 的 興 味 や 性 的 逸 脱 行 動 は 見 ら れ ま せ ん。		

Self-care Skills



	こ ぞだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
S9	こ にちじょうてき せわ せきにん 子どもの日常的な世話の責任を は 果たしています。		
S10	わたし ふたり こ ねんれい せいちょうだんかい 私たち二人は、子どもが年齢や成長段階に あ えていめん かんり じぶん 合った衛生面の管理が自分でできるように うなが 促しています。		
S11	わたし ふたり こ せいかく せいちょうだんかい 私たち二人は、子どもの性格や成長段階に あう えていめん かんり じぶん 応じた衛生面の管理が自分でできるよう さまざまなか 工夫をしています。		
S12	じぶん い ちえ いえ ないがい あんぜん 自分で生きる知恵と家の内外での安全に て ついて子どもに伝えていきます。		
S13	どうろ あんぜん みし ひと きけんせい ひび きけん さ かた 道路の安全、見知らぬ人の危険性、日々の危険の避け方や たいいよ しかた 対処の仕方など。		
S13	おや よういくしゃ びょうき 親(養育者)が病気になるなど、 こ ごま とま れんらく ひと ほうほう 子どもが困った時に連絡する人や方法を おし 教えています。		

親のサポート力

かぞく かんきょう 家族と環境



		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	はい○ いいえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE1	家族史 かぞくし	わたし ふたり こども ころ つら けいけん 私たちが子どもだった頃、辛い経験をしたことがあります。 りょうしん い あらそ ぼうりょく おや いっしょ く けいけん ・両親の言い争い、暴力、親と一緒に暮らせなかった経験など。		
FE2		わたし かぞく こころ おお いたで 私たちが家族は、心の大きな痛手となるような そうしつ いま けつちやく かか 喪失や未だに決着のつかない葛藤を抱えています。 しべつ りょうしん りこん ・死別、両親の離婚など。		
FE3	家族 かぞく	こ しょうがい こ こうどう 子どもの障害や子どもの行動は、きょうだいや こぞだ うえ えいきょう あた 子育てをしていく上で影響を与えていると思います。		
FE4		こ せいかつ かぞく ひと なか 子どもと生活している家族の人の中で、 ふちよう み ひと 不調の見られる人がいます。 せいしんてき ふちよう ・精神的な不調 しんたいできけんこうふりよう ・身体的健康不良 もんたいてうどう ・問題行動		
FE5		こ せいかつ かぞく ひと なか 子どもと生活している家族の人の中で、 しょうがい ひと 障害をもっている人がいます。 しんたいしょうがい ・身体障害 ちてきしょうがい ・知的障害 せいしんしょうがい ・精神障害		



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ い いえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE6	家 族	こ せいかつ かぞく ひと なか いんしゅ 子どもと生活している家族の人の中で、飲酒や やくぶつ もんだい ひと 薬物の問題をもっている人がいます。		
FE7		こ せいかつ かぞく ひと なか 子どもと生活している家族の人の中で、 ぼうりやく う けいけん 暴力を受けた経験のあるおとながいます。		
FE8		かていない こうろん けんか おお 家庭内で口論や喧嘩など、もめることが多いです。		
FE9	親 族	しんぞく ちよくせつてき えんじょ 親族が直接的な援助をしてくれています。		
FE10		しんぞく せいしんてき ささ 親族が精神的な支えになってくれています。		
FE11		しんぞく けいざいてき えんじょ 親族が経済的な援助をしてくれています。		
FE12		しんぞく じょうほうていきょう 親族が情報提供やアドバイスをしてくれています。		
FE13		わたし かぞく なか こ よういく 私たち家族の中に子どもの養育を たす 助けてくれるおとながいます。		

かぞく かんきょう 家族と環境



		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	はい○ いいえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE14	住 ま い	わたし かぞく す いえ 私たち家族には、住む家がありません。		
FE15		わたし かぞく いそろろ しゃちゅうせいかつ 私たち家族は、居候や車中生活するなど、 いどころ きた 居所が定まりません。		
FE16		じゅうきょ しゅうへん かんきょう こどもが暮らす上で 住居や周辺の環境は、子どもが暮らす上で あんぜん 安全です。		
FE17		いえ せいかつひつじゆひん せつび とどの 家には生活必需品や設備が整っています。		
FE18		こどもが暮らすためには、いえ しゅうりや 子どもが暮らすためには、家の修理や かいぞう ひつよう 改造が必要です。		
FE19		こどもが暮らすためには、いえ せま 子どもが暮らすためには、家が狭すぎます。		
FE20	仕 事	わたし わたし じぶん はたら せいけい た 私(私たち)は、自分で働いて生計を立てています。		
FE21		わたし わたし はたら かた こども よういく 私(私たち)の働き方は、子どもの養育に えいきよう 影響があります。 はたら かた ざんぎょう やきん たんしんふにん きやうじつしゅつふ ・働き方とは、残業、夜勤、単身赴任、休日出勤など。		
FE22		わたし わたし せいぎしょくいん はたら 私(私たち)は正規職員として働いています。		
FE23		きゅうしよくちゆう かぞく なん しゅうろうしえん 求職中の家族は、何らかの就労支援を う 受けています。		



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ い いえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE24	家計	がいたう ふくしてあて しんせい 該当する福祉手当はすべて申請しています。		
FE25		でんき すいどう しまらい とどこお 電気、ガス、水道などの支払で滞っているものはありません。		
FE26		かぞく しゅうにゆう はんいんない せいかつ 家族は収入の範囲内で生活ができています。		
FE27		しゅきん ふ 借金が増えています。		
FE28		わたし かぞく こんご せいかつひ ふあん 私たち家族は、今後の生活費に不安を感じています。 こんご せいかつひ いりようひ しゅっさんひよう きょういくひ ・今後の生活費とは、医療費、出産費用、教育費など。		
FE29	地域社会との関わり	わたし かぞく ちいき う い 私たち家族は、地域で受け入れられていると感じていません。		
FE30		わたし かぞく ちいき さべつ いや 私たち家族は、地域で差別や嫌がらせを受けていません。		
FE31		わたし かぞく ちいき なか ゆうじん 私たち家族には地域の中に友人がいます。		
FE32		わたし かぞく ちょうないかい こ かい 私たち家族は、町内会や子ども会、PTAなどの地域の組織や活動に参加しています。		
FE33	地域の人材や社会資源	ちいき 地域にいろいろな資源があり、暮らしやすいです。 ちいきげん みせ こうえん じどうかん たくしよ たよ ・地域資源とは、お店、公園、児童館、クリニック、託児所、頼れる きんじよ ひと こそだ ひろば こうつうきかん 近所の人、ファミリーサポート、子育て広場、交通機関など。		
FE34		わたし かぞく じっさい ちいきげん つか 私たち家族は、実際に地域資源を使っています。		

けんこう 健康



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と <small>そだ ひつよう たいせつ</small>	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現状とサポート
H1	子どもは健康です。 ・過去6か月間に1週間以内の体調不良程度であれば健康と 考えて良い。		
H2	必要な予防接種を受けています。		
H3	栄養バランスのとれた食事をしています。		
H4	学校の活動以外に何らかの運動をしています。 ・サッカー、野球、スイミング、ミニバスケットボール、 剣道、柔道など。		
H5	排尿や排便の失敗はありません。		
H6	たばこを吸いません。		
H7	麻薬や覚せい剤、危険ドラッグ、 シンナー等の薬物を使用していません。		
H8	お酒を飲みません。		
H9	第二次性徴（異性についても）、性交、避妊、 妊娠について、正確な知識を持っています。		
H10	妊娠や出産、中絶の経験はありません。		

Health



	こ そだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
H11	家庭では健康に配慮した食事を作っています。 成長にしたがって、子どもに食事作りに参加するように促しています。		
H12	子どもがケガをしたら、いつも適切に手当しています。また、自分で手当ができるように働きかけています。		
H13	子どもは必要な医療や健診を受けています。		
H14	子どもに自分自身の健康に気を付けるように促しています。 ・食事の栄養バランス、十分な睡眠、適度な運動、 規則正しい生活リズムなど		
H15	子どもに適度な運動を勧めています。		
H16	子どもに性の健康教育をしています。 ・男女のからだの仕組みの違いや性感染症のこと、異性との 交際は、お互いを尊重し合い、相手の気持ちと体を思いやる 行動が大切であること、色んな性のあり方を尊重する大切さ を知っていることなど。		
H17	親（養育者）は、お酒の飲み方に留意してます。		
H18	親（養育者）は、麻薬や覚せい剤、危険ドラッグ、 シンナー等の薬物を使用していません。		

親のサポート力

きょう いく
教育



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と <small>そだ ひつよう たいせつ</small>	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
E1	学校に楽しく通っています。		
E2	学校に友だちがいます。		
E3	学校でいじめられていません。		
E4	学校で挑発的な言動や乱暴な行為は見られません。		
E5	教師等との関係は悪くありません。		
E6	子どもは、前向きな気持ちで授業を受けています。		
E7	学習に影響を与えるような集中力の欠如は見られません。		
E8	特別支援教育を受けています。		
E9	1年以内に無断で学校を欠席したことはありません。		

Education



	こ 子どもの育ちに必要な大切なこと そだ ひつよう たいせつ	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
E10	参観日や運動会などの学校行事やPTA活動に参加しています。		
E11	子どもが学校の授業についていけない場合、親が教える、担任に相談する、塾などの資源を活用するなど何らかの手だてを講じます。		
E12	必要な場合、子どもが学校で特別支援教育を受けられるようにしています。		
E13	家庭では、宿題をするように声をかけたり、励ましたりしています。		
E14	学習やスポーツなど子どもが取り組む活動に関して過度のプレッシャーをかけていません。 ・100点を採ることや1番になることにこだわりません。		
E15	親（養育者）は、子どもが新しいことを身につけられるように励ましています。		
E16	親（養育者）は、学校の規則や規律を理解しています。		
E17	子どもが読んでいる本や学習に気を配っています。		
E18	いじめがあった場合、親（養育者）は、気付いて、学校の先生に相談するなど適切に対処しています。		

親のサポート力

じょう ちょう こう どう はっ たつ
情緒・行動の発達



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そだ ひつよう たいせつ	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現状とサポート
B1	子どもは幸せです。		
B2	同年齢の友だちをつくり、その友だちと一緒に楽しく過ごします。		
B3	うれしかったこと、嫌だったこと、心配なことなどを身近な大人に話したり相談したりすることができます。		
B4	怒りや欲求不満を自分でコントロールしたり、解決したりすることができます。		
B5	親（養育者）の許可なしに家を空けたり夜遊びをしたりしません。		
B6	突然無口になったり表情が硬くなったりするようなことは、めったに見られません。		
B7	長い時間ほったらかしにされて過ごすことはありません。		
B8	子どもは暴力で物事を解決しようとはしません。		
B9	相手を挑発するような言動や乱暴な行動はしません。		
B10	わざと自分を傷つけるようなことはしません。		
B11	1年以内に触法行為や犯罪行為をしていません。		

Emotional and Behavioural Development



	こ そだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
B12	子どもが家庭で安心して暮らせるようにしています。		
B13	親(養育者)は、子どもの情緒や行動の問題が解決できない時、援助を求めます。		
B14	親(養育者)が、子どもを非難したり、敵意を向けたりはしていません。		
B15	親(養育者)は、色々なやり方で子どもが協調性や良い態度を身につけていけるようにしています。 ・ほめること、話し合い、手本を示す、褒美、気晴らし、遊び、説得、説明など		
B16	家族で決めたルールや約束があり、必要な場合には、行動を制約することもあります。		
B17	家庭内の争いや暴力を子どもの目に触れさせないように気を付けています。		
B18	いつも一貫した態度で子どもに接しています。		
B19	親(養育者)は、養育方針が一致しています。		

親のサポート力

自分についての自覚



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と <small>そだ ひつよう たいせつ</small>	は い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現 状 と サ ポ ー ト
ID1	自分に自信を持っています。		
ID2	自分らしい身なり(装いや立ち振る舞いなど)に満足しています。		
ID3	自分があきらめずに成し遂げたことに満足しています。		
ID4	自分の周囲への関心や興味を示します。		
ID5	自分の性に対して違和感を持っていません。		
ID6	男女を問わず友だちとは、対等に接しています。		
ID7	その年齢で対処すべき事柄に対して、決定することができます。		
ID8	無力感を感じるようなことはありません。		

Identity



	こ そだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要な大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
ID9	子どもの衣類は清潔です。サポートが必要な子どもの場合、衣類が汚れないように配慮しています。		
ID10	その子の強さを大切にし、それを伸ばそうとしています。		
ID11	子どもは自分にふさわしい服装をしています。 ・年齢や性別、文化、宗教、そして必要な場合、障害にも適切なもの		
ID12	子どもが努力したことや達成したことを認めています。		
ID13	子どもは、地域や家族の文化や言語（方言）を学ぶ機会があります。		
ID14	子どもは、地域や家族の文化を尊重し、受け入れるように教えられています。		
ID15	子どもを家族の一員として大切にしています。		

親のサポート力

か ぞく しや かい かん けい
家族・社会との関係



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と そだ ひつよう たいせつ	は っ い ◎ も う 少 し ○ わ か ら な い △	げんじょう 現状とサポート
F1	親（養育者）と良好でしっかりとした関係にあります。		
F2	信頼して秘密を打ち明けて相談することができる大人がいます。		
F3	親しい友だちがいます。		
F4	日頃から家に遊びに行ったり、一緒に過ごしたりする友だちがいます。		
F5	子どもは、年齢にふさわしい性の知識を持ち、心配な行動はみられません。		
F6	年下の子どもや生き物をかわいがります。		
F7	他の子どもをいじめたりしていません。		
F8	弟や妹の世話を手伝います。		
F9	子どもが親（養育者）の面倒をみることはありません。		



Family and Social Relationships

	こ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
F10	子ども自身が暴力に訴えたり、残虐な行動をしないように気を配っています。		
F11	家族以外の人との付き合いが、子どもにとって良い見本になるようにしています。		
F12	子どもは、大人の性行動を見たり、巻き込まれたりすることはありません。		
F13	子どもが不適切な仲間や大人と付き合わないよう配慮しています。		
F14	サポートが必要な子どもの場合、親（養育者）以外の世話を受ける場合には、子どもが安定して過ごせるケア・サービスを選択しています。		
F15	サポートが必要な子どもの場合、子どもの世話はずっと決まった人達がします。		
F16	サポートが必要な子どもの場合、身の回りの世話（食事、入浴など）については、特定の人に頼んでいます。		

親のサポート力



Social Presentation



	こ 子どもの育ちに必要な大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
P8	親（養育者）は、子どもが自分で身だしなみを整えられるようにしています。		
P9	親（養育者）は、服装や髪型について、子どもが自分で選ぶ（決める）ことを認めています。		
P10	親（養育者）は、子どもが自分に自信をもつことができるよう働きかけています。		
P11	子どもに子ども会やボーイスカウト活動などの地域活動への参加を勧めています。		
P12	親（養育者）と近所の人や関係機関の人との関係は、概ね良好です。		
P13	家族の中で犯罪行為や反社会的活動に関わっている人はいません。		
P14	家族は、地域社会に受け入れられていると感じています。		

親のサポート力

じ ぶん い ち え き じゆつ
自分で生きる知恵と技術



子どもの育ちのニーズ

	こ ども の 育 ち に 必 要 で 大 切 な こ と <small>そだ ひつよう たいせつ</small>	は っ ぽ う ち っ ぽ う ち っ ぽ う <small>い◎ もう少し○ わからない△</small>	げんじょう 現状とサポート
S1	子どもは年齢相応な自分で生きる知恵と方法を持っており、衛生面の管理が自分でできます。		
S2	危険を回避することができます。		
S3	簡単な料理を作ることができます。		
S4	親（養育者）が病気になるなど、困った時に連絡する人や方法を知っています。		
S5	親（養育者）の了解のもと、出掛けたり、旅行に行くことができます。		
S6	お金を計画的に使って買い物ができます。		
S7	子どもは自分の生活の中で、必要なことに対処する能力があります。 ・学校以外の地域活動があるかということ。		
S8	年齢不相応な性的興味や性的逸脱行動は見られません。		

Self-care Skills



	こ そだ ひつよう たいせつ 子どもの育ちに必要で大切なこと	は い○ もう少し○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
S9	親（養育者）は、子どもが年齢や成長段階に合った衛生面の管理が自分のできるように促しています。		
S10	子どもが自分で生きる知恵と技術を身につけるように促しています。 ・お金の管理など		
S11	自立できるように教え、安全に過ごせるよう、子どもに教えています。 ・見知らぬ人の危険性、日々の危険の避け方や対処の仕方など		
S12	親（養育者）の面倒は、子どもが出来る範囲でみています。		
S13	基本的に、家族生活の責任は、親（養育者）にあります。		

親のサポート力

かぞく かんきょう 家族と環境



		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	はい○ いいえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE1	家族史	<p>わたし ふたり こころ つら けいけん 私たち二人が子どもだった頃、辛い経験をしたことがあります。</p> <p>りょうしん い あらそ ぼうりょく おや いっしょ く けいけん ・両親の言い争い、暴力、親と一緒に暮らせなかった経験など。</p>		
FE2		<p>わたし かぞく こころ おお いたで 私たち家族は、心の大きな痛手となるような 喪失や未だに決着のつかない葛藤を抱えています。</p> <p>しべつ りょうしん りこん ・死別、両親の離婚など。</p>		
FE3	家族	<p>こ しょうがい こ こうどう 子どもの障害や子どもの行動は、きょうだいや 子育てをしていく上で影響を与えていると おもいます。</p>		
FE4		<p>こ せいかつ かぞく ひと なか 子どもと生活している家族の人の中で、 不調の見られる人がいます。</p> <p>せいしんてき ふちょう ・精神的な不調</p> <p>しんたいでんけんこうふりょう ・身体的健康不良</p> <p>もんたいこうどう ・問題行動</p>		
FE5		<p>こ せいかつ かぞく ひと なか 子どもと生活している家族の人の中で、 障害をもっている人がいます。</p> <p>しんたいしょうがい ・身体障害</p> <p>ちてきしょうがい ・知的障害</p> <p>せいしんしょうがい ・精神障害</p>		



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い い い え わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE6	家 族	こどもと生活している家族の人の中で、飲酒や薬物の問題をもっている人がいます。		
FE7		こどもと生活している家族の人の中で、暴力を受けた経験のあるおとながいます。		
FE8		家庭内で口論や喧嘩など、もめることが多いです。		
FE9	親 族	親族が直接的な援助をしてくれています。		
FE10		親族が精神的な支えになってくれています。		
FE11		親族が経済的な援助をしてくれています。		
FE12		親族が情報提供やアドバイスをしてくれています。		
FE13		私たち家族の中に子どもの養育を助けてくれるおとながいます。		

かぞく かんきょう
家族と環境



		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	はい○ いい○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE14	住まい	わたし かぞく す いえ 私たち家族には、住む家がありません。		
FE15		わたし かぞく いそろろ しゃちゅうせいかつ 私たち家族は、居候や車中生活するなど、 いどころ きた 居所が定まりません。		
FE16		じゅうきょ しゅうへん かんきょう こどもが暮らす上で 住居や周辺の環境は、子どもが暮らす上で あんぜん 安全です。		
FE17		いえ せいかつひつじゆひん せつび とどの 家には生活必需品や設備が整っています。		
FE18		こどもが暮らすためには、いえ しゅうりや 子どもが暮らすためには、家の修理や かいぞう ひつよう 改造が必要です。		
FE19		こどもが暮らすためには、いえ せま 子どもが暮らすためには、家が狭すぎます。		
FE20	仕事	わたし わたし じぶん はたら せいけい た 私(私たち)は、自分で働いて生計を立てています。		
FE21		わたし わたし はたら かた こども よういく 私(私たち)の働き方は、子どもの養育に えいきよう 影響があります。 はたら かた ざんぎょう やきん たんしんふにん きやうじつしゆぎん ・働き方とは、残業、夜勤、単身赴任、休日出勤など。		
FE22		わたし わたし せいぎしょくいん はたら 私(私たち)は正規職員として働いています。		
FE23		きゅうしよくちゆう かぞく なん しゅうろうしえん 求職中の家族は、何らかの就労支援を う 受けています。		



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ い い○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE24	家計	がいたう ふくしてあて しんせい 該当する福祉手当はすべて申請しています。		
FE25		でんき すいどう しまらい とどこお 電気、ガス、水道などの支払で滞っているものはありません。		
FE26		かぞく しゅうにゆう はんいんない せいかつ 家族は収入の範囲内で生活ができています。		
FE27		しゃっきん ふ 借金が増えています。		
FE28		わたし かぞく こんご せいかつひ ふあん 私たち家族は、今後の生活費に不安を感じています。 こんご せいかつひ いりようひ しゅっさんひよう きょういくひ ・今後の生活費とは、医療費、出産費用、教育費など。		
FE29	地域社会との関わり	わたし かぞく ちいき う い 私たち家族は、地域で受け入れられていると感じていません。		
FE30		わたし かぞく ちいき さべつ いや 私たち家族は、地域で差別や嫌がらせを受けていません。		
FE31		わたし かぞく ちいき なか ゆうじん 私たち家族には地域の中に友人がいます。		
FE32		わたし かぞく ちょうないかい こ かい 私たち家族は、町内会や子ども会、PTAなどの地域の組織や活動に参加しています。		
FE33	地域の人材や社会資源	ちいき 地域にいろいろな資源があり、暮らしやすいです。 ちいきげん みせ こうえん じどうかん たくしよ たよ ・地域資源とは、お店、公園、児童館、クリニック、託児所、頼れる きんじよ ひと こそだ ひろば こうつうきかん 近所の人、ファミリーサポート、子育て広場、交通機関など。		
FE34		わたし かぞく じっさい ちいきげん つか 私たち家族は、実際に地域資源を使っています。		

けんこう
健康



子どもの育ちのニーズ

	こどもく 項目	はい い え 不明	きづ 気付き
H1	子どもは健康です。子どもは自分の健康を保つ知識を持ち、行動できます。 ・過去6か月間に1週間以内の体調不良程度であれば健康と考える良い。		
H2	必要な予防接種を受けています。		
H3	栄養バランスのとれた食事をしています。		
H4	学校の活動以外に何らかの運動をしています。 ・サッカー、野球、スイミング、ミニバスケットボール、剣道、柔道など。		
H5	排尿や排便の失敗はありません。		
H6	お酒を飲みません。		
H7	たばこを吸いません。		
H8	麻薬や覚せい剤、危険ドラッグ、シンナー等の薬物を使用していません。		
H9	性交や避妊、妊娠について、正確な知識を持っています。		
H10	妊娠や出産の経験はありません。		

Health



	こどもく 項目	はい い え 不明	きづ 気付き
H11	家庭では健康に配慮した食事を準備しています。 成長にしたがって、子どもに食事作りに参加する ように促しています。		
H12	子どもがケガをしたり病気にかかったりした 時には、いつも適切に手当しています。 また、自分で手当ができるように 働きかけています。		
H13	子どもは必要な医療や健診を受けています。		
H14	子どもに自分自身の健康に気を付けるように 促しています。 ・食事の栄養バランス、十分な睡眠、適度な運動、 規則正しい生活リズムなど		
H15	子どもに適度な運動を勧めています。		
H16	子どもに性の健康教育をしています。 ・男女の体の仕組みの違いや性感染症のこと、異性との 交際はお互いを尊重し合い、相手の気持ちや体を思い やる行動が大切であること、色んな性のあり方を尊重する 大切さを知っていることなど。		

親のサポート力

きょう いく
教育



子どもの育ちのニーズ

	こゝろく 項目	はい い え 不明	きづ 気付き
E1	学校教育や職業訓練などを受けています。		
E2	ある程度の学力は、身に付いています。		
E3	中学卒業後、進学または就職をしています。		
E4	学校や職場に友だちがいます。		
E5	学校の教師や職場のスタッフとの関係は悪くありません。		
E6	学習や訓練、仕事などに主体的に取り組んでいます。		
E7	特別支援教育を受けています。		
E8	学校や職場で挑発的な言動や乱暴な行為は見られません。		
E9	中途退学していません。		
E10	1年以内に無断で学校や職場を欠席したことはありません。		

Education



	こどもく 項目	は い え ○ △	きづ 気付き
E11	子どもが学校や仕事などにきちんと行くよう気をつけています。		
E12	サポートが必要な子どもについては、子どもが学校の授業や職業訓練などについていけない場合、何らかの支援が受けられるようにしています。		
E13	子どもの勉強や仕事などに関心を持っています。		
E14	子どもが学校や仕事などで困ったときに子どもの話を聞いたり、アドバイスをしたりしています。サポートが必要な子どもの場合、より配慮しています。		
E15	親（養育者）は、子どもが新しいことを身につけられるように励ましています。サポートが必要な子どもの場合、より配慮しています。		
E16	家庭内でトラブルが起きても、子どもが学校や仕事などを続けられるようにしています。		

親のサポート力

じょう ちよ こう どう はっ たつ
情緒・行動の発達



子どもの育ちのニーズ

	こどもく 項目	はい い え 不明	きづ 気付き
B1	子どもは幸せです。		
B2	うれしかったこと、嫌だったこと、心配なことなどを身近な大人に話したり相談したりすることができます。		
B3	同年齢の友だちをつくり、その友だちと一緒に楽しく過ごします。		
B4	突然無口になったり表情が硬くなったりするようなことは、めったに見られません。		
B5	家出をしたことはありません。		
B6	子どもは暴力で物事を解決しようとしません。		
B7	相手を挑発するような言動や乱暴な行動はしません。		
B8	わざと自分を傷つけるようなことはしません。		
B9	1年以内に犯罪行為をしていません。		

Emotional and Behavioural Development



	こどもく 項目	はい い え 不明	きづ 気付き
B10	子どもが家庭で安心して暮らせるようにしています。		
B11	親（養育者）は、いろいろなやり方で子どもが協調性や良い態度を身につけていけるようにしています。 ・ほめること、話し合い、手本を示す、褒美、気晴らし、遊び、説得、説明など。		
B12	親（養育者）は、家族関係に問題がある時、外部に援助を求めます。		
B13	家族で決めたルールや約束があり、必要な場合には、行動を制限することもあります。		
B14	いつも一貫した態度で子どもに接しています。		
B15	家庭内の争いや暴力を子どもの目に触れさせないように気を付けています。		
B16	親（養育者）が、子どもを非難したり、敵意を向けたりしていません。		

親のサポート力

自分についての自覚



	こころもく 項目	はい いいえ 不明	きづ 気付き
ID1	自分に自信を持っています。		
ID2	自分らしい身なり(装いや立ち振る舞いなど)に満足しています。		
ID3	自分があきらめずに成し遂げたことに満足しています。		
ID4	自分の周囲への関心や興味を示します。		
ID5	自分の人種に違和感を持っていません。		
ID6	自分の性に対して、違和感を持っていません。		
ID7	男女を問わず友だちとは、対等に接しています。		
ID8	通常対処すべきことは、自分で決定することができます。		
ID9	無力感を感じるようなことはありません。		

Identity



	<small>こうもく</small> 項目	はい いい ええ 不明	<small>きづ</small> 気づき
ID10	子どもが努力したことや達成したことを認めています。		
ID11	子どもの性は受け入れられています。		
ID12	子どもは自分に合った服装をしています。 ・年齢や性別、文化、宗教、そして必要な場合、 障害に適切なもの。		
ID13	子どもは、地域や家族の文化や言語（方言）を学ぶ機会があります。		
ID14	子どもは、他人や他の家族の文化を尊重し、受け入れるように教えられています。		
ID15	子どもを家族の一員として大切にしています。		

親のサポート力

かぞく しゃかい かんけい
家族・社会との関係



子どもの育ちのニーズ

	こもく 項目	はい い え 不明	◎ ○ △	きづ 気付き
F1	特定の大人としっかりした前向きな関係があります。			
F2	信頼して秘密を打ち明けて相談することができる大人がいます。			
F3	親しい友だちがいます。			
F4	日頃から家に遊びに行ったり、一緒に過ごしたりする友だちがいます。			
F5	家族の世話をよくしますが、責任は親にあります。			
F6	子どもの性的な知識と行動は、年齢相応です。			
F7	特定の交際相手があります。			
F8	自分の子どもを育てていません。			



Family and Social Relationships

	こどもく 項目	はい い え 不明	きづ 気付き
F9	子どもは、大人の性行動を見たり、巻き込まれたりすることはありません。		
F10	子どもと家族との関係は良好です。		
F11	子どもが不適切な仲間や大人とかかわりを持たないようにしています。		
F12	子どもは、自分の時間が十分に取れ、興味のあることをして過ごさせています。		
F13	親の面倒は子どもが出来る範囲でみます。		
F14	サポートが必要な子どもの場合、親以外の世話を受ける時には、子どもが安定して過ごせるケア・サービスを選択しています。		
F15	サポートが必要な子どもの世話はずっと決まった人達がします。		
F16	サポートが必要な子どもの場合、特に身の回りの世話（食事、入浴など）については特定の人に頼んでいます。		

親のサポート力



Social Presentation



	こどもく 項目	はい い え 不明	きづ 気付き
P8	服装や外見は、本人の希望に沿っています。		
P9	親（養育者）は、子どもが自分に自信が 持てるよう働きかけています。		
P10	親（養育者）は、子どもが職場や学校で困難な 状況になった時、本人が支援を受けられる ように教えています。		
P11	親（養育者）と近所の人や関係機関の人との 関係は、概ね良好です。		
P12	家族の中で犯罪行為や反社会的活動に 関わっている人はいません。		
P13	家族や子どもは、地域社会に 受け入れられていると感じています。		

親のサポート力

じ ぶん い ち え ぎ じゆつ
自分で生きる知恵と技術



子どもの育ちのニーズ

	こゝちく 項目	はい い え ○ △	きづ 気付き
S1	子どもは、衛生面の管理が自分でできます。		
S2	結果を考えて行動しています。		
S3	材料を準備し、自分の食事を作ることができます。		
S4	親（養育者）が病気になるなど、困ったときに連絡する人や方法を知っています。		
S5	自分で計画を立て、外出や旅行などができます。		
S6	自分のお金を適切に管理できます。		
S7	家族と離れて自立して、1人暮らしをしています。 ・1人暮らしをしている場合は、家族と一緒に暮らせない理由について備考欄に記入する。		
S8	路上で寝たり、暮らしたりしたことはありません。		

Self-care Skills



	こどもく 項目	はい い え 不明	きづ 気付き
S9	親（養育者）は、子どもが年齢や成長段階に合った衛生面の管理が自分でできるように促しています。		
S10	子どもが自分で生きる知恵と技術を身につけるように促しています。 ・お金の管理など		
S11	基本的に、家庭のことの責任は、親（養育者）にあります。		
S12	障害のある子どもと親（養育者）は、自立に向けて社会資源を活用できるように準備しています。		
S13	子どもは、困ったときにどこに相談したら良いかを知っています。		
S14	自分の家で子どもが安定した暮らしができるように生活を整えています。		

親のサポート力

かぞく かんきょう 家族と環境



		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	はい○ いいえ○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE1	家族史 かぞくし	わたし ふたり こころ つら けいけん 私たちが子どもだった頃、辛い経験をしたことがあります。 りょうしん い あらそ ぼうりょく おや いっしょ く けいけん ・両親の言い争い、暴力、親と一緒に暮らせなかった経験など。		
FE2		わたし かぞく こころ おお いたで 私たちが家族は、心の大きな痛手となるような そうしつ いま けつちやく かか 喪失や未だに決着のつかない葛藤を抱えています。 しづつ りょうしん りこん ・死別、両親の離婚など。		
FE3	家族 かぞく	こ しょうがい こ こうどう 子どもの障害や子どもの行動は、きょうだいや こぞだ うえ えいきょう あた 子育てをしていく上で影響を与えていると おも 思います。		
FE4		こ せいかつ かぞく ひと なか 子どもと生活している家族の人の中で、 ふちよう み ひと 不調の見られる人がいます。 せいしんてき ふちよう ・精神的な不調 しんたいてきけんこうふりよう ・身体的健康不良 もんたいてうどう ・問題行動		
FE5		こ せいかつ かぞく ひと なか 子どもと生活している家族の人の中で、 しょうがい ひと 障害をもっている人がいます。 しんたいしょうがい ・身体障害 ちてきしょうがい ・知的障害 せいしんしょうがい ・精神障害		



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い い え わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE6	家 族	こどもと生活している家族の人の中で、飲酒や薬物の問題をもっている人がいます。		
FE7		こどもと生活している家族の人の中で、暴力を受けた経験のあるおとながいます。		
FE8		家庭内で口論や喧嘩など、もめることが多いです。		
FE9	親 族	親族が直接的な援助をしてくれています。		
FE10		親族が精神的な支えになってくれています。		
FE11		親族が経済的な援助をしてくれています。		
FE12		親族が情報提供やアドバイスをしてくれています。		
FE13		私たち家族の中に子どもの養育を助けてくれるおとながいます。		

かぞく かんきょう
家族と環境



		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	はい○ いい○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE14	住まい	わたし かぞく す いえ 私たち家族には、住む家がありません。		
FE15		わたし かぞく いそろろ しちゅうせいかつ 私たち家族は、居候や車中生活するなど、 いどころ きた 居所が定まりません。		
FE16		じゅうきょ しゅうへん かんきょう こどもが暮らす上で 住居や周辺の環境は、子どもが暮らす上で あんぜん 安全です。		
FE17		いえ せいかつひつじゆひん せつび とどの 家には生活必需品や設備が整っています。		
FE18		こどもが暮らすためには、いえ しゅうりや 子どもが暮らすためには、家の修理や かいぞう ひつよう 改造が必要です。		
FE19		こどもが暮らすためには、いえ せま 子どもが暮らすためには、家が狭すぎます。		
FE20	仕事	わたし わたし じぶん はたら せいけい た 私(私たち)は、自分で働いて生計を立てています。		
FE21		わたし わたし はたら かた こども よういく 私(私たち)の働き方は、子どもの養育に えいきよう 影響があります。 はたら かた ざんぎょう やきん たんしんふにん きやうじつしゆぎん ・働き方とは、残業、夜勤、単身赴任、休日出勤など。		
FE22		わたし わたし せいぎしょくいん はたら 私(私たち)は正規職員として働いています。		
FE23		きゅうしよくちゆう かぞく なん しゅうろうしえん 求職中の家族は、何らかの就労支援を う 受けています。		



Family and Environment

		かぞく かんきょう じょうほう 家族と環境の情報	は い○ い い○ わからない△	げんじょう 現状とサポート
FE24	家計	がいたう ふくしてあて しんせい 該当する福祉手当はすべて申請しています。		
FE25		でんき すいどう しまらい とどこお 電気、ガス、水道などの支払で滞っているものはありません。		
FE26		かぞく しゅうにゆう はんいんない せいかつ 家族は収入の範囲内で生活ができています。		
FE27		しゃっきん ふ 借金が増えています。		
FE28		わたし かぞく こんご せいかつひ ふあん 私たち家族は、今後の生活費に不安を感じています。 こんご せいかつひ いりようひ しゅっさんひよう きょういくひ ・今後の生活費とは、医療費、出産費用、教育費など。		
FE29	地域社会との関わり	わたし かぞく ちいき う い 私たち家族は、地域で受け入れられていると感じていません。		
FE30		わたし かぞく ちいき さべつ いや 私たち家族は、地域で差別や嫌がらせを受けていません。		
FE31		わたし かぞく ちいき なか ゆうじん 私たち家族には地域の中に友人がいます。		
FE32		わたし かぞく ちょうないかい こ かい 私たち家族は、町内会や子ども会、PTAなどの地域の組織や活動に参加しています。		
FE33	地域の人材や社会資源	ちいき 地域にいろいろな資源があり、暮らしやすいです。 ちいきげん みせ こうえん じどうかん たくしよ たよ ・地域資源とは、お店、公園、児童館、クリニック、託児所、頼れる きんじよ ひと こそだ ひろば こうつうきかん 近所の人、ファミリーサポート、子育て広場、交通機関など。		
FE34		わたし かぞく じっさい ちいきげん つか 私たち家族は、実際に地域資源を使っています。		

子どもの育ちのニーズシートは、イギリスで開発された「Integrated Children's System (ICS)」をもとに、岡山県子どものための総合情報アセスメントシステムの作成に係るワーキンググループが、岡山県の風土や生活習慣に合うように、イギリス政府の許可を得て開発したものです。本冊子を転載、複写(コピー)して活用、配布を希望される場合や、本冊子を活用した研修会などの開催を希望される場合は、下記の問い合わせ先までご一報ください。子どもを中心としたより良い支援を一緒に創っていきましょう。

【この冊子に関するお問い合わせ先】

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6 岡山県保健福祉部子ども未来課
TEL:086-226-7911 FAX:086-234-5770 E-mail:kosodate@pref.okayama.lg.jp

作成:「子どものための総合情報アセスメントシステム」アセスメント活用の手引き作成ワーキンググループ

平成29年3月 初版第1刷作成

発行：岡山県

